

本章の趣旨:

常にアッラーに見られているという感覚を育て、違反を戒めるために、総合的かつ網羅的なアッラーの知識を明らかにすること。

説明:

①使徒よ、確かにアッラーはあなたに相談を持ちかけた女性(サアラバの娘ハウラ)の話を聞かれた。それは彼女が夫(アッサーミトの息子アウス)にズィハール(「あなたはまるで私の母親の背中のようなだ」と告げることで成立する離婚の一形態)を告げられ、夫のしたことをアッラーに訴えたときのことである。アッラーはあなたたち二人の相談を聞いておられ、**かれ**にとって不明なことは何一つない。本当にアッラーは僕たちの言葉をよく聞く御方であり、彼らの行いをよく見る御方であられ、**かれ**に不明なことは何一つないのである。

②自分の妻に対して、「あなたは私にとって母親の背中のようなだ」と告げる者は、嘘を言っている。妻は母ではない。母とは自分を産んでくれた人である。彼らの発言はひどい発言であり、嘘であるということを知れ。アッラーは何度も繰り返し赦して水に流して下さる御方であり、罪から救われるように贖いを定めてくださった。

③こうしたひどい発言をしておきながら、妻との性交を望む者は、その前に奴隷解放の贖いをしなければならぬ。それがズィハール戒めの法規定である。アッラーはあなたたちの行いを熟知しておられ、**かれ**に不明なことは何一つない。

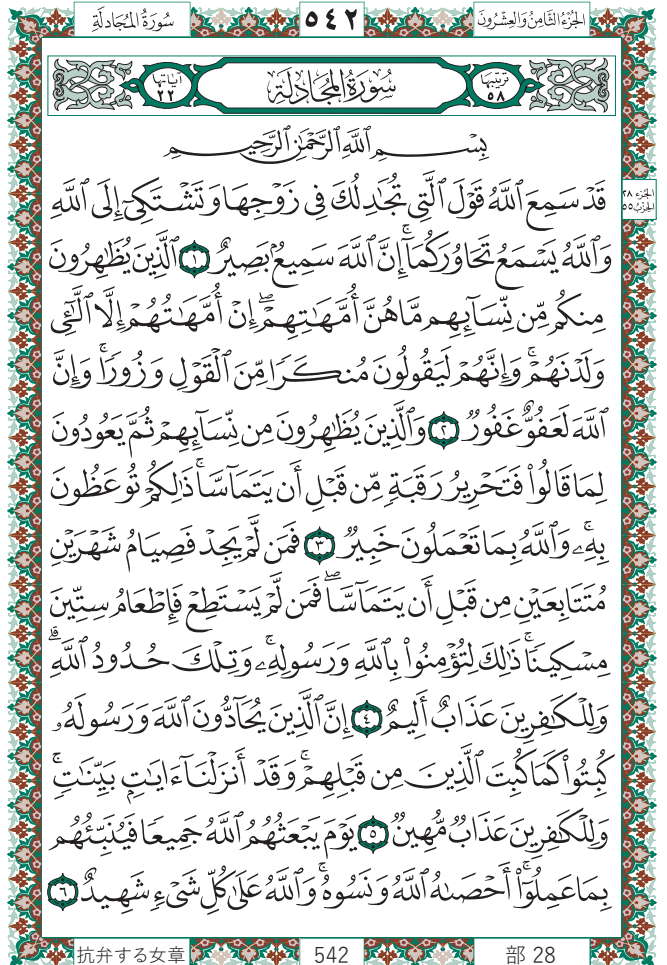
④解放する奴隷のない者は、ズィハールをした妻との性交の前に2ヵ月連続で断食をしなければならぬ。2ヵ月連続で断食できない者は、60人の困窮者への食事提供が必須である。これがアッラーの命じられたことと信じて従うべき法規定であり、これらの諸規定があなたたちのために**われら**が定めたアッラーの境界線(刑法)だからその一線を越えてはならない。アッラーの定めた諸規定と境界線を拒絶する者には、痛ましい懲罰があるのだ。

⑤アッラーとその使徒に敵対する者は、過去の共同体の中で**かれ**に敵対した者が辱めを受けたように貶められるだろう。**われら**は数多くの明らかな印を下したはずである。アッラーとその使徒や印を拒む者には、屈辱の懲罰がある。

⑥アッラーが全ての者を蘇らせる日、誰一人野放しにしておかれることはなく、彼らが生前この世でなした醜い行いを告げられる。アッラーは彼らを囲い込まれ、彼らの行いを取りこぼされることはない。彼ら自身が忘れたようなことも、大小逃さず網羅する記録の書にあるのを見出すだろう。アッラーは全てのことを見ておられ、彼らの行いが不明となることは何一つない。

本諸節の功德:

- アッラーは僕たちの中でも虐げられた者たちに特別な優しさをお恵みくださり、祈りを聞き上げてください、助けて下さる。
- 僕たる人間が救いを見出すことができるよう、ズィハールの贖いが段階別に多種あるのは、アッラーのお慈悲である。
- ズィハールに関する章句の最後に不信仰者のことが述べられるのは、それが彼ら不信仰者の行いだという示唆だからであり、そのために不信仰者の状態についての言及が相応しいとなったのである。



أَلَمْ تَرَ أَنَّ اللَّهَ يَعْلَمُ مَا فِي السَّمَوَاتِ وَمَا فِي الْأَرْضِ مَا يَكُونُ مِنْ
تَجْوَى ثَلَاثَةَ أَيَّامٍ إِلَّا هُوَ رَآهُمْ وَلَا يَحِطُّ بِمَا لَمْ يَحِيطُوا بِهَا
مِنْ ذَلِكَ وَلَا أَكْثَرَ إِلَّا هُوَ مَعَهُمْ أَيْنَ مَا كَانُوا ثُمَّ يُنَبِّئُهُمْ بِمَا
عَمِلُوا يَوْمَ الْقِيَامَةِ إِنَّ اللَّهَ بِكُلِّ شَيْءٍ عَلِيمٌ ﴿٧﴾ أَلَمْ تَرَ إِلَى الَّذِينَ
نُهِوا عَنِ النَّجْوَى ثُمَّ يَعُودُونَ لِمَا نُهُوا عَنْهُ وَيَتَنَجَّوْنَ بِالْإِثْمِ
وَالْعُدْوَانِ وَمَعْصِيَةِ الرَّسُولِ وَإِذْ أَوْحَى إِلَيْكَ يَا مُحَمَّدٌ
بِهِ اللَّهُ وَيَقُولُونَ فِي أَنْفُسِهِمْ لَوْلَا يُعَذِّبُنَا اللَّهُ بِمَا نَقُولُ حَسْبَهُمْ
جَهَنَّمُ يَصَلُّونَهَا فِي نِسِّ الْمَصِيرِ ﴿٨﴾ يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا إِذَا
تَنَجَّيْتُمْ فَلَا تَتَنَجَّوْا بِالْإِثْمِ وَالْعُدْوَانِ وَمَعْصِيَةِ الرَّسُولِ
وَتَنَجَّوْا بِالْبُرِّ وَالتَّقْوَى وَاتَّقُوا اللَّهَ الَّذِي إِلَيْهِ تُحْشَرُونَ ﴿٩﴾ إِنَّمَا
النَّجْوَى مِنَ الشَّيْطَانِ لِيَحْزُنَ الَّذِينَ آمَنُوا وَلَيْسَ بِضَرِّهِمْ
شَيْئًا إِلَّا ابْتِغَاءً مِنَ اللَّهِ وَعَلَى اللَّهِ فَايَتَوَكَّلِ الْمُؤْمِنُونَ ﴿١٠﴾ يَا أَيُّهَا
الَّذِينَ آمَنُوا إِذَا قِيلَ لَكُمْ تَفَسَّحُوا فِي الْمَجَالِسِ فَافْسَحُوا يَفْسَحِ
اللَّهُ لَكُمْ وَإِذَا قِيلَ انشُرُوا فَانشُرُوا يَرْفَعِ اللَّهُ الَّذِينَ آمَنُوا مِنْكُمْ
وَالَّذِينَ أُوتُوا الْعِلْمَ دَرَجَاتٍ وَاللَّهُ بِمَا تَعْمَلُونَ خَبِيرٌ ﴿١١﴾

せようとするものである。だが、悪魔やその虚飾がアッラーのご意志なしに信者を害することはない。信者は万事においてアッラーをこそ頼みとするがよい。

こうしてアッラーは発言における礼節を述べられると、集会における礼節を述べるべく仰せられた。

⑪ アッラーを信じ、その教えにのっとり行動する者よ、「もっと広がってください」と集会で言われたら広がるがよい。そうすれば、アッラーがあなたたちのためにこの世でもあの世でも恵みを広げて下さるだろう。また、ある集会で高德の士のために「席を空けてください」と言われたら、席を空けるがよい。そうすればアッラーがあなたたちの中で信じる者や知識を与えられた者の位階を大いに高めて下さるだろう。アッラーはあなたたちの行いを熟知しておられ、**かれ**に不明なことは何一つなく、行いに応じて報いて下さるのだ。

本諸節の功德:

- アッラーは被造物の高みにおわすものの、その知識によって被造物を見ておられ、不明なことは何一つない。
- 多くの人たちが密談を通して罪を犯すため、アッラーは信者に密談をするなら善行と神を意識した行いのためにせよと命じられた。
- 集会の礼節の一つ、それは他の人のために車座を広げて座ること(あるいは詰めて座ること)である。

⑦ 使徒よ、アッラーは天地にあるものを全て知っておられ、**かれ**に不明なことは何一つないのを見たか。3人で密談を交わしていても、至高の**かれ**が4人目として知っておられ、5人で密談を交わしていても、至高の**かれ**が6人目として知っておられる。それより数が少なくても多くても変わらず、彼らがどこにいても**かれ**はその知識によって彼らと共におられ、**かれ**にとって彼らの話で不明なことは何一つない。それからアッラーは審判の日に彼らの行いを告げられる。本当にアッラーは全てのことを知っておられ、**かれ**に不明なことは何一つないのである。

⑧ 使徒よ、信者を見れば内緒話をしていたユダヤ教徒を見たか。アッラーが内緒話を禁じられたにもかかわらず、彼らは禁じられたことを繰り返すのだった。信者の陰口や敵対、使徒への反逆など、罪となることも含めて互いに囁き合うのである。使徒よ、彼らがあなたのもとにやって来て、アッラーが挨拶されたことのない挨拶、すなわち「アッサム アライカ(毒があなたにありますように)」とあなたの死を意図した挨拶をし、預言者の信頼を損ねるべく「我々の発言に対してアッラーが罰を下せばよいではないか。もし彼が本当に預言者ならば、我々の発言に対してアッラーが罰を下したはずだ」と言ったなら、彼らにはその発言に相応しい火獄の懲罰で十分である。その熱さに苦しむことになるだろう。彼らの運命のなんとおぞましいことよ。

⑨ アッラーを信じ、その教えにのっとり行動する者よ、ユダヤ教徒のようにならないように、罪や敵対、使徒への反逆を含む密談をしてはならない。密談するならば、アッラーにお仕えすることや**かれ**への反逆防止についてせよ。そしてご命令を果たし、禁止を避けることでアッラーを意識せよ。**かれ**の御許にのみ、あなたたちは審判の日に精算と報いのために蘇らせられるのである。

⑩ 密談は、罪や敵対、使徒への反逆を含むものであればそれは悪魔がその友に囁く虚飾であり、信者を悲しま

يَأْتِيهَا الَّذِينَ آمَنُوا إِذَا نَجَّيْتُمُ الرَّسُولَ فَقَدِ مُؤْمِنِينَ يَدِي جَنُوكُمْ
 صَدَقَةٌ ذَلِكَ خَيْرٌ لَكُمْ وَأَطْهَرُ فَإِن لَّمْ تَجِدُوا فَإِنَّ اللَّهَ غَفُورٌ رَّحِيمٌ
 ١٣٦ ءَأَشْفَقْتُمْ أَنَّ تُقَدِّمُوا بَيْنَ يَدِي جَنُوكُمْ صَدَقْتُمْ فَاذَلِكُمْ تَقْعَلُونَ
 وَتَابَ اللَّهُ عَلَيْكُمْ فَأَقِيمُوا الصَّلَاةَ وَآتُوا الزَّكَاةَ وَأَطِيعُوا اللَّهَ
 وَرَسُولَهُ وَاللَّهُ خَبِيرٌ بِمَا تَعْمَلُونَ ١٣٧ ۞ أَلَمْ تَرَ إِلَى الَّذِينَ تَوَلَّوْا
 قَوْمًا غَضِبَ اللَّهُ عَلَيْهِمْ مَا هُم مِّنكُمْ وَلَا مِنْهُمْ وَيَحْلِفُونَ عَلَى الْكُذِبِ
 وَهُمْ يَعْلَمُونَ ١٣٨ أَعَدَّ اللَّهُ لَهُمْ عَذَابًا شَدِيدًا إِنَّهُمْ سَاءَ مَا كَانُوا
 يَعْمَلُونَ ١٣٩ أَتُخَدِّدُوا أَيْمَانَهُمْ حُتَّةً فَصَدَّوْا عَن سَبِيلِ اللَّهِ فَلَهُمْ
 عَذَابٌ مُّهِينٌ ١٤٠ لَنْ نَغْنِي عَنْهُمْ أَمْوَالُهُمْ وَلَا أَوْلَادُهُمْ مِنَ اللَّهِ
 شَيْئًا أُولَئِكَ أَصْحَابُ النَّارِ هُمْ فِيهَا خَالِدُونَ ١٤١ يَوْمَ يَجْعَلُهُمُ
 اللَّهُ جَمِيعًا فَيَحْلِفُونَ لَهُ كَمَا يَحْلِفُونَ لَكُمْ وَيَحْسَبُونَ أَنَّهُمْ
 عَلَىٰ شَيْءٍ ءَا لَّا إِنَّهُمْ هُمُ الْكَاذِبُونَ ١٤٢ أَسْتَحْوَذَ عَلَيْهِمُ الشَّيْطَانُ
 فَأَنسَهُمْ ذِكْرَ اللَّهِ أُولَئِكَ حِزْبُ الشَّيْطَانِ ءَا لَإِنَّ حِزْبَ الشَّيْطَانِ
 هُمُ الْخٰسِرُونَ ١٤٣ إِنَّا لَنَدِينُ الْيٰحْيٰدُونَ اللَّهَ وَرَسُولَهُ وَأُولَئِكَ فِي الْأَذْذٰلِينَ
 ١٤٤ كَتَبَ اللَّهُ لَأَعْلَبِينَ أَنَا وَرُسُلِي إِيَّاكَ اللَّهُ قَوِيٌّ عَزِيزٌ ١٤٥

12 教友が預言者への呼びかけを何度もするようになると、アッラーは仰せられた。「信者よ、使徒を訪問したいなら、訪問の際に施しを供えるがよい。そうした施しを差し出すほうが、心の清めとなる。アッラーへの従順さにかなうため、あなたたちにとってより良くより清らかである。だがもし施すものが見つからない場合は、咎めを負うことはない。アッラーは罪を繰り返し赦して下さる御方であり、できることしか義務として課せられない慈悲深い御方であられる。

13 使徒に相談事を持ちかける際に施しを差し出すと、貧しくなってしまうと怖れるのか。アッラーが命じられたことを果たせず、できない場合は仕方がないとお許しくださったなら、礼拝を丁寧に捧げ、施しを払い、アッラーとその使徒に従うがよい。アッラーはあなたたちの行いを熟知しておられ、**かれ**に不明なことは何一つなく、行いに応じて報いて下さるのだ。

14 使徒よ、不信仰と反逆のためにアッラーのお怒りをかったユダヤ教徒と親交を持つ偽信者たちを見たか。これらの偽信者は信者でもユダヤ教徒でもない。彼らはどっちつかずの半端者であり、ムスリム側の知らせをユダヤ教徒に伝えてはいないと誓うが、彼らの誓いは嘘なのである。

15 アッラーは彼らを火獄の最下層に入れることであの世での痛ましい懲罰をあてがわれる。彼らが生前この世でしていた行いは醜悪そのものであった。

16 彼らは宣誓を不信仰による死から身を守るために利用していた。イスラームを表明することで自分たちの命と財産を守ろうとし、ムスリムたちを躊躇わせ、弱らせようとすることで真理を前に人々を妨害したのである。彼らには、屈辱的な懲罰があるだろう。

17 彼らの財産も子孫もアッラーの前では何の役にも立たない。これらの者こそ、火獄の民として永遠にそこに留まり、絶え間ない懲罰を受けるのである。

18 アッラーが一人残らず皆を応報のために蘇らせる日、彼らは自分たちが不信仰や偽善にはあらず、アッラーのお喜びにかなうことを率先して行う信者であったと誓うだろう。信者よ、彼らはこの世であなたたちに対して自分たちはムスリムだと誓いを立てるように、誓いが何かの役に立つと、あるいは害を払い除けてくれると思いついて、あの世でアッラーに対しても誓いを立てるのである。彼らのこの世とあの世での誓いにも明らかなように、彼らこそ本当の嘘つきではないだろうか。

19 悪魔が彼らをのっとり、その囁きでアッラーのことを忘れさせたため、**かれ**が悦ぶことではなく、怒ることをしたのである。これらの特徴を持つ者こそ、悪魔の頭領イブリースの軍勢かつ信奉者にほかならない。導きを迷妄で、天国を火獄で売買したイブリースの軍勢と信奉者が、この世でもあの世でも損失者でないことがあろうか。

20 アッラーとその使徒に敵対する者こそ、不信仰者の共同体と同じようにアッラーがこの世でもあの世でも辱めを与える者である。

21 アッラーは予め**われ**は使徒たちを明らかな証と力で助け、敵を打ち負かす」と定められた。本当にアッラーは使徒たちの支援に力強く、比類なき力で敵に復讐する御方であられる。

本諸節の功德:

- アッラーの預言者に対する優しさは明らかである。教友からの増えるばかりの相談事を前に、礼節を教示された。
- 偽善者とユダヤ教徒の親密さ。
- 不信仰の民の敗北と信仰の民の勝利は、遅れることはあっても遅えることはない神の摂理である。

لَا تَجِدُ قَوْمًا يُؤْمِنُونَ بِاللَّهِ وَالْيَوْمِ الْآخِرِ يُوَادُّونَ مَنْ حَادَّ
 اللَّهَ وَرَسُولَهُ وَلَوْ كَانُوا آبَاءَهُمْ أَوْ أَبْنَاءَهُمْ أَوْ إِخْوَانَهُمْ
 أَوْ عَشِيرَتَهُمْ أُولَئِكَ كَتَبَ فِي قُلُوبِهِمُ الْإِيمَانَ وَأَيَّدَهُمْ
 بِرُوحٍ مِّنْهُ وَيُدْخِلُهُمْ جَنَّاتٍ تَجْرِي مِنْ تَحْتِهَا الْأَنْهَارُ
 خَالِدِينَ فِيهَا رَضِيَ اللَّهُ عَنْهُمْ وَرَضُوا عَنْهُ أُولَئِكَ حِزْبُ
 اللَّهِ أَلَا إِنَّ حِزْبَ اللَّهِ هُمُ الْمُفْلِحُونَ ﴿٥٤٥﴾

سُورَةُ الْجُمُعَةِ

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

سَبَّحَ لِلَّهِ مَا فِي السَّمَاوَاتِ وَمَا فِي الْأَرْضِ وَهُوَ الْعَزِيزُ الْحَكِيمُ
 ﴿١﴾ هُوَ الَّذِي أَخْرَجَ الَّذِينَ كَفَرُوا مِنْ أَهْلِ الْكِتَابِ مِنْ دِيَارِهِمْ
 لِأَوَّلِ الْحَشْرِ مَا ظَنَنْتُمْ أَنْ يَخْرُجُوا وَظَنُّوا أَنَّهُمْ مَانِعَتُهُمْ
 حُصُونُهُمْ مِنَ اللَّهِ فَأَتَاهُمُ اللَّهُ مِنْ حَيْثُ لَمْ يَحْتَسِبُوا وَقَذَفَ
 فِي قُلُوبِهِمُ الرُّعْبَ يُخْرِبُونَ بُيُوتَهُمْ بِأَيْدِيهِمْ وَأَيْدِي الْمُؤْمِنِينَ
 فَاعْتَبِرُوا يَا أُولِيَ الْأَبْصَارِ ﴿٢﴾ وَلَوْلَا أَنْ كَتَبَ اللَّهُ عَلَيْهِمُ
 الْجَلَاءَ لَعَذَّبْتَهُمْ فِي الدُّنْيَا وَلَهُمْ فِي الْآخِرَةِ عَذَابٌ النَّارِ ﴿٣﴾

て英明な御方。

② **かれ**こそは、アッラーを信じようとせずその使徒ムハンマドを否定した、ナディール族をマディーナからシリア地方へと追い出した御方であられる。彼らは元々律法の民ユダヤ教徒だったが、やがて契約を裏切り、多神教徒となってしまった。信者よ、彼らをシリア地方へと追い出すがよい。あなたたちは彼らの威勢を前に彼らが出ていくとは思わなかったし、彼ら自身も彼らのこしらえた要塞があればアッラーの威力や懲罰を防げると思っていた。ところがアッラーの威力は彼らの想定外のところからやって来た。使徒が彼らの攻撃と追放を命じたのである。そしてアッラーが彼らの心に激しい恐怖を投げ込み、ムスリムの手に渡らないように自分で自分の家を中から壊し、ムスリムは外から壊すという事態となった。だから心眼の持ち主よ、彼らが不信仰のせいではなくなったかの教訓を得て、彼らが受けた懲罰を受けずに済むよう、彼らと同じようにはならない。

③ もしアッラーが彼らに対して故郷追放を定めておられなかったなら、この世での殺害と捕虜で苦しめておられたらだろう。いずれにしても、彼らにはあの世で火獄の懲罰が待ち受けており、永遠にそこに留まるのである。

本諸節の功德:

- ムスリムにとって、不信仰者の信仰を嫌わせ、それとは無縁であることを促さない愛情は禁じられるが、不信仰者の親戚に対する自然な愛情はムスリムにとっても許される。
- 信仰の民の間では、信仰の絆がどんな絆よりも信頼に足る絆である。
- 虚偽の民が時として負け知らずと思われれることもあるが、彼らが思ってもみないところから敗北は訪れるものである。
- 不幸中の幸いともいえる、より小さな災難によって大きな災難を払い除けるのは、人間に対するアッラーの定めの一つである。

④ 使徒よ、アッラーと審判の日を信じる者で、アッラーとその使徒に敵対する者を愛し、交友を結ぶ者は見ないだろう。たとえこれらの敵対者が親や子供、兄弟や帰属する部族の者であったとしても然り。信仰はアッラーとその使徒の敵と親交を結ぶのを禁じるからであり、信仰の絆はあらゆる絆に優るもので、相矛盾するときには優先されるものだからである。たとえ親戚縁者であっても、アッラーとその使徒の敵とは親しくないこれらの者こそ、アッラーが彼らの心中にある信仰を変わることなく不動のものとし、明らかな証と光によって強くされた者たちである。彼らは審判の日には城下や木々の下を川が流れるアドンの楽園に入れてもらえ、永遠にそこに留まりながら、尽きることのない恩恵を楽しむだろう。彼らにはアッラーのお悦びがあり、お怒りをこらむことはもはやない。また彼ら自身も、至高なる**かれ**のお姿を見るという恩恵をはじめ、とめどない恩恵を得てかれに満足する。これらの特徴を持つ者こそ、ご命令を果たし、禁止を避けるアッラーの兵士である。アッラーの兵士こそ、この世でもあの世でも望むものを得て、恐れるものをやり過ごすことのできる勝者ではないだろうか。

59. 集結章(アル・ハシュル)

マディーナ啓示

本章の趣旨:

ユダヤ教徒や偽信者を弱らせるアッラーの御力と威厳を明らかにし、信者間の連帯とは反対に彼らの分裂ぶりを明らかにすること。

説明:

① 天地にある全ての被造物で似つかわしくないものとアッラーは無関係であり、はるかに偉大である。**かれ**は威力並ぶ者なき御方であり、その創造と教え、定めにおいて

ذَلِكَ بِأَنَّهُمْ شَاقُوا اللَّهَ وَرَسُولَهُ، وَمَنْ يُشَاقِ اللَّهَ فَإِنَّ اللَّهَ شَدِيدُ
 الْعِقَابِ ﴿٥﴾ مَا قَطَعْتُمْ مِنْ لَيْتَةٍ أَوْ نَرَكْتُمْ هَا قَائِمَةً عَلَى
 أُصُولِهَا فَبِإِذْنِ اللَّهِ وَيَحْزِيِ الْفَلْسِقِينَ ﴿٦﴾ وَمَا آفَاءَ اللَّهِ
 عَلَى رَسُولِهِ مِنْهُمْ فَمَا أَوْجَفْتُمْ عَلَيْهِ مِنْ خَيْلٍ وَلَا رِكَابٍ
 وَلَكِنَّ اللَّهَ يُسَلِّطُ رَسُولَهُ عَلَى مَنْ يَشَاءُ وَاللَّهُ عَلَى كُلِّ شَيْءٍ
 قَدِيرٌ ﴿٧﴾ مَا آفَاءَ اللَّهِ عَلَى رَسُولِهِ مِنْ أَهْلِ الْقُرَى فَلِلَّهِ وَلِلرَّسُولِ
 وَلِذِي الْقُرْبَىٰ وَالْيَتَامَىٰ وَالْمَسْكِينِ وَابْنِ السَّبِيلِ كَيْ لَا يَكُونَ
 دُولَةً بَيْنَ الْأَغْنِيَاءِ مِنْكُمْ وَمَا آتَاكُمْ الرَّسُولُ فَخُذُوهُ
 وَمَا نَهَاكُمْ عَنْهُ فَانْتَهُوا وَاتَّقُوا اللَّهَ إِنَّ اللَّهَ شَدِيدُ الْعِقَابِ
 ﴿٨﴾ لِلْفُقَرَاءِ الْمُهَاجِرِينَ الَّذِينَ أُخْرِجُوا مِنْ دِيَارِهِمْ وَأَمْوَالُهُمْ
 يُبْتَغُونَ فُضْلًا مِنَ اللَّهِ وَرِضْوَانًا وَيَنْصُرُونَ اللَّهَ وَرَسُولَهُ
 أُولَئِكَ هُمُ الصَّادِقُونَ ﴿٩﴾ وَالَّذِينَ تَبَوَّءُوا الدَّارَ وَالْإِيْمَانَ مِنْ
 قَبْلِهِمْ يُحِبُّونَ مَنْ هَاجَرَ إِلَيْهِمْ وَلَا يَجِدُونَ فِي صُدُورِهِمْ
 حَاجَةً مِمَّا أُوتُوا وَيُؤْثِرُونَ عَلَىٰ أَنْفُسِهِمْ وَلَوْ كَانَ بِهِمْ خَصَاصَةٌ
 وَمَنْ يُوقِ شَحْنًا نَفْسِهِ فَأُولَئِكَ هُمُ الْمُفْلِحُونَ ﴿١٠﴾

④彼らに起こったことは、不信仰と誓約違反でアッラーとその使徒に敵対したからである。アッラーに反抗する者はアッラーが懲罰に厳しい御方だということを知れ。必ずやその者は**かれ**の厳しい懲罰を受けるのである。

⑤信者の集団よ、ナディール族との戦いにおいてあなたたちがアッラーの敵を怒らせるためにナツメヤシの木を切る、またはあなたたちが役立てられるようそれを根幹の立つまま放置したとしても、それはアッラーのご命令であって、彼らが思い込むような地上を荒廃させることではない。アッラーはそれで**かれ**への忠義から外れて誓約違反をし、忠実であることよりも謀略を選んだユダヤ教徒を辱められるだろう。

⑥アッラーがその使徒に帰されたナディール族の財産は、あなたたちがそれを求めて馬やラクダを整えて駆け付けたわけではなく、特に苦勞して得たわけでもなかった。だが、アッラーはお望みの者に対してその使徒を制圧せしめられ、使徒にナディール族を制圧させ、戦闘なしに征服させたのである。アッラーは全能の御方であり、遮るものは何一つない。

⑦アッラーが使徒に戦闘なしに恵んだ村民の財産はアッラーのためにあり、お望みの者に分け与えられる。使徒とその親族ハーシム家やムッタリブ家には、施しを受け取ることができない代わりに代替寄与があり、孤児や貧者、費用を使い果たした旅人にも然りである。それは貧者をよそに裕福な者たちの間だけでお金が回らないようにするためのこと。信者よ、使徒が戦利品の中から分け与えてくれるものはこれを受け、禁じたものはこれをやめよ。アッラーのご命令を果たし、禁止を避けることで意識せよ。本当にアッラーは懲罰に厳しい御方だから、その懲罰には注意せよ。

⑧このお金の一部はアッラーのために自分の家族や財産を置き去りにせざるを得なかった、移住した貧しい信者のために使われる。彼らはアッラーがこの世で糧をお恵みくださり、あの世でお喜び下さることを願って、アッラーのためのジハードに参戦することでアッラーとその使徒を助けるのであった。これらの特徴を持つ者こそ、本当に不動の信仰を持つ者である。

そうしてアッラーは移住者について称えられると、援助者についても称えるべく仰せられた。

⑨移住者よりも先にマディーナに住み着き、アッラーとその使徒への信仰を選んだ援助者は、マッカから移住してきた者を愛し、たとえ戦利品のうち彼らには与えられなかったものが移住者に与えられても嫉妬することはない。それどころか、たとえ自分たちが貧窮していたとしても、移住者を己に優先させるほどである。お金への執着からアッラーに守られ、**かれ**への奉仕で費やす者こそ、願うものを得て怖れるものから救われる勝者である。

本諸節の功德:

- より大きな利益を達成するため一見害をもたらすと思われることをするのは、地上を荒廃させることにはならない。
- イスラームの素晴らしさの一つ、それは金品を必要とする人への気遣いである。戦利品の分配においても、特に必要としない裕福な人でなく、必要な人に分け与える。
- 謙譲の精神、これは援助者が見事に体現したイスラームの美德の一つである。

وَالَّذِينَ جَاءُوا مِن بَعْدِهِمْ يَقُولُونَ رَبَّنَا اغْفِرْ لَنَا وَلِإِخْوَانِنَا
الَّذِينَ سَبَقُونَا بِالْإِيمَانِ وَلَا تَجْعَلْ فِي قُلُوبِنَا غِلًّا لِلَّذِينَ
آمَنُوا رَبَّنَا إِنَّكَ رَءُوفٌ رَّحِيمٌ ﴿١٦﴾ أَلَمْ تَرَ إِلَى الَّذِينَ
نَافَقُوا يَقُولُونَ لِإِخْوَانِهِمُ الَّذِينَ كَفَرُوا مِن أَهْلِ الْكِتَابِ
لَئِن أُخْرِجْتُمْ لَنَخْرُجَنَّ مَعَكُمْ وَلَا نُطِيعُ فِيكُمْ أَحَدًا أَبَدًا
وَإِن قُوتِلْتُمْ لَنَنصُرَنَّكُمْ وَاللَّهُ يَشْهَدُ إِنَّهُمْ لَكَاذِبُونَ
﴿١٧﴾ لَئِن أُخْرِجُوا لَا يَخْرُجُونَ مَعَهُمْ وَلَئِن قُوتِلُوا لَا يَنْصُرُوهُمْ
وَلَئِن نَّصَرُوهُمْ لَيُوَلِّيَنَّ الْأَدْبَارَ ثُمَّ لَا يُبْصِرُونَ ﴿١٨﴾ لَأَنزِمَنَّ
أَشَدَّ رَهْبَةً فِي صُدُورِهِمْ مِن اللَّهِ ذَلِكَ بِأَنَّهُمْ قَوْمٌ
لَّا يَفْقَهُونَ ﴿١٩﴾ لَيَقْفِلُنَّوَنَكُمُ جَمِيعًا إِلَّا فِي قُرَى مُحَصَّنَةٍ
أَوْ مِن وَرَاءِ جُدُرٍ بَأْسُهُم بَيْنَهُمْ شَدِيدٌ تَحْسَبُهُمْ جَمِيعًا
وَقُلُوبُهُمْ شَتَّىٰ ذَلِكَ بِأَنَّهُمْ قَوْمٌ لَّا يَعْقِلُونَ ﴿٢٠﴾ كَمَثَلِ
الَّذِينَ مِن قَبْلِهِمْ قَرِيبًا ذَاتُ قُوَّةٍ وَبَالَ أَمْرِهِمْ وَلَهُمْ عَذَابٌ
أَلِيمٌ ﴿٢١﴾ كَمَثَلِ الشَّيْطَانِ إِذْ قَالَ لِلْإِنْسَانِ اكْفُرْ فَلَمَّا
كَفَرَ قَالَ إِنِّي بَرِيءٌ مِّنكَ إِنِّي أَخَافُ اللَّهَ رَبَّ الْعَالَمِينَ ﴿٢٢﴾

⑪ 審判の日に至るまで、これらの者の後にやって来て誠心誠意彼らに従う者は、「我らが主よ、私たちを赦し、私たちよりも先にアッラーとその使徒を信じた信仰上の兄弟を赦してください。どうか私たちの心に信者の誰に対しても憎悪の念を抱かせないでください。我らが主よ、あなたは思いやり深く、慈悲深い御方です」と言う。

⑫ 使徒よ、不信仰を胸中に隠しつつ、信仰を表明する者が、不信仰における同胞たる、改竄(かいざん)された律法を奉じるユダヤ教徒に言うのを見たか。「我々はあなたたちを見捨てたり、引き渡したりしないから、自分の家で待機していてくれ。もしムスリム側があなたたちを追い出そうものなら、我々はあなたたちへの連帯を示すために共に出て行くだろう。我々を止めようとする者に従いはしない。もしあなたたちに戦いをけしかけようものなら、我々はあなたたちを助けるだろう。」だが、ユダヤ教徒が追い出されれば共に出て行き、戦いをけしかけられれば共に戦うといったことを言う偽善者は嘘つきだとアッラーは証言されるのである。

⑬ もしムスリムたちがユダヤ教徒を追放したとしても彼ら(偽信者)が共に出て行くことはなく、戦いを始めたとしても助けることはない。またもし彼ら(ユダヤ教徒)がムスリムに対して偽信者を助け、戦いを始めたとしても、偽信者は逃げ出すだけで、その後偽信者が助けを得られることはないだろう。アッラーは彼らを貶め、恥辱を与えられるだろう。

⑭ 信者よ、あなたたちは偽信者やユダヤ教徒の心の中ではアッラーよりも恐ろしい存在なのであり、彼らがあなたたちよりも恐れ、アッラーへの恐れが弱いのは、彼らが理解しない民だからである。なぜなら、もし彼らが理解する民であったなら、アッラーこそが本当に恐れられるべき存在であり、かれこそがあなたたちを彼らよりも優勢にされた御方なのだということがわかるはずだからである。

⑮ 信者よ、ユダヤ教徒は城壁で守られた村か壁の後ろ側からでなければ、一丸となってあなたたちと戦うことはない。臆病なために、対峙することができないのだ。仲間内では互いへの敵愾心から威勢がよく、一致団結していると思いついでいるが、実際のところ彼らの心のうちは分裂しきっている。そうした分裂と敵対は彼らが考えない民だからであり、もし考えることができたなら、真理を知ってそれに従い、分裂などしなかったはずだからである。

⑯ これらユダヤ教徒の不信仰の有様とどんな懲罰が下されたかの例えは、少し前のマッカの多神教徒のようである。不信仰の成れの果てを味わうこととなり、バドルの戦いにおいて殺される者は殺され、捕虜とされる者は捕虜とされた。また彼らには、あの世ではさらに痛ましい懲罰がある。

⑰ 偽信者の聞き方の例えは、悪魔が人間に不信仰を耳あたりの良いものとするようであり、いざ人間が騙されて不信仰に陥れば、悪魔は言うのだ。「お前の不信仰に俺は関係ない。俺は万物の主アッラーが怖い。」

本諸節の功德:

- 時や場の変化に信仰の絆は左右されない。
- 偽信者のユダヤ教徒への友情は空想のようであり、苦難に直面すればすぐ消滅してしまう。
- ユダヤ教徒は臆病で戦時中も対峙することができない。住居や武器に身を隠してでなければ戦えないのである。

فَكَانَ عَاقِبَتُهُمَا أَنَّهُمَا فِي النَّارِ خَالِدِينَ فِيهَا وَذَلِكَ جَزَاءُ الظَّالِمِينَ ﴿١٧﴾ يَا أَيُّهَا الَّذِينَ ءَامَنُوا اتَّقُوا اللَّهَ وَكَتُظَرَ نَفْسٌ مَّا قَدَّمْتُمْ لِغَدٍ وَاتَّقُوا اللَّهَ ءِتَابَ اللَّهِ خَيْرٌ لِّمَآ تَعْمَلُونَ ﴿١٨﴾ وَلَا تَكُونُوا كَالَّذِينَ نَسُوا اللَّهَ فَأَنسَاهُمْ أَنفُسَهُمْ أُولَٰئِكَ هُمُ الْفَٰسِقُونَ ﴿١٩﴾ لَا يَسْتَوِي أَصْحَابُ النَّارِ وَأَصْحَابُ الْجَنَّةِ أَصْحَابُ الْجَنَّةِ هُمُ الْفَٰئِزُونَ ﴿٢٠﴾ لَوْ أَنزَلْنَا هَٰذَا الْقُرْءَانَ عَلَىٰ جَبَلٍ لَّرَأَيْتَهُ خَاشِعًا مُّتَصَدِّعًا مِّنْ خَشْيَةِ اللَّهِ وَتِلْكَ الْأَمْثَلُ لِنَصْرِهَا لِنَأْتَس لَعَلَّهُمْ يَتَفَكَّرُونَ ﴿٢١﴾ هُوَ اللَّهُ الَّذِي لَا إِلَهَ إِلَّا هُوَ عَلَيْهِ الْغَيْبُ وَالشَّهَادَةُ هُوَ الرَّحْمَنُ الرَّحِيمُ ﴿٢٢﴾ هُوَ اللَّهُ الَّذِي لَا إِلَهَ إِلَّا هُوَ الْمَلِكُ الْقَدُّوسُ السَّلَامُ الْمُؤْمِنُ الْمُهَيَّمِنُ الْعَزِيزُ الْجَبَّارُ الْمُتَكَبِّرُ سُبْحَانَ اللَّهِ عَمَّا يُشْرِكُونَ ﴿٢٣﴾ هُوَ اللَّهُ الْخَلِيقُ الْبَارِئُ الْمُصَوِّرُ لَهُ الْأَسْمَاءُ الْحُسْنَىٰ يُسَبِّحُ لَهُ فِي السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ وَهُوَ الْعَزِيزُ الْحَكِيمُ ﴿٢٤﴾

سُورَةُ الْمُنَجِّثَاتِ

١٣ آيَاتٍ

①⑦ 悪魔とそれに従った者の結末は、審判の日に火獄行きとなり永遠にそこに留まるというものである。彼ら待ち受けるそうした報いこそ、己を欺き、アッラーの定めた境界線を越える者への報いに他ならない。

①⑧ アッラーを信じ、その教えにのっかって善行を行う者よ、ご命令を果たし、禁止を避けることでアッラーを意識せよ。そして審判の日のために自分がどんな善行をしたかを顧みよ。アッラーを意識するのだ。本当にアッラーはあなたたちの行いを熟知しておられ、不明なことは何一つなく、行いに応じて報いられるのである。

①⑨ ご命令実践をやめ、禁止を避けるのをやめることでアッラーを忘れてしまい、アッラーにも忘れられて、アッラーのお怒りと懲罰から救われる行いをしない者ようになってはならない。そうした者こそ、アッラーのことを忘れてご命令を果たすことも禁止をやめることもしない、アッラーへの忠義から逸れてしまった者である。

②① 火獄の民と天国の民が等しいことはない。むしろこの世での行いに違いがあったように、得る報いにも違いがある。天国の民こそ、望むものを得て、怖れるものから救われる勝者なのである。

②② もしわれらがこのクルアーンを山に下したとしたら、使徒よ、あなたはその堅固な山がアッラーへの恐れあまり揺れ動くのを見るだろう。クルアーンには、強力な啓発や厳しい警告があるからである。こうした例えをわれらが人間にもたらすのは、理性を動かさず、クルアーンの章句に込められた教訓に学ぶだろうからである。

②③ ②④ かれこそは、他に正しく崇められるべき存在のないアッラーである。かれは目には見えないものも見えるものも知る御方であり、かれに不明なことは何一つない。この世でもあの世でも慈悲あまねく慈悲深い御方であり、かれの慈悲はあらゆる世界に行き渡る。王であり、全ての欠陥とは無縁で清く尊い御方。欠点の全くない健全な御方であり、明瞭な印の数々によって使徒たちの正しさを証明する御方。僕たちの行いを監督する威力並びない無敵の御方。全てを威圧する威圧者であり、尊厳者。アッラーは多神教徒が並べ立てる偶像などからは、無関係で清い御方であられる。

②⑤ ②⑥ ②⑦ ②⑧ ②⑨ ③① ③② ③③ ③④ ③⑤ ③⑥ ③⑦ ③⑧ ③⑨ ④① ④② ④③ ④④ ④⑤ ④⑥ ④⑦ ④⑧ ④⑨ ⑤① ⑤② ⑤③ ⑤④ ⑤⑤ ⑤⑥ ⑤⑦ ⑤⑧ ⑤⑨ ⑥① ⑥② ⑥③ ⑥④ ⑥⑤ ⑥⑥ ⑥⑦ ⑥⑧ ⑥⑨ ⑦① ⑦② ⑦③ ⑦④ ⑦⑤ ⑦⑥ ⑦⑦ ⑦⑧ ⑦⑨ ⑧① ⑧② ⑧③ ⑧④ ⑧⑤ ⑧⑥ ⑧⑦ ⑧⑧ ⑧⑨ ⑨① ⑨② ⑨③ ⑨④ ⑨⑤ ⑨⑥ ⑨⑦ ⑨⑧ ⑨⑨ ⑩① ⑩② ⑩③ ⑩④ ⑩⑤ ⑩⑥ ⑩⑦ ⑩⑧ ⑩⑨ ⑪① ⑪② ⑪③ ⑪④ ⑪⑤ ⑪⑥ ⑪⑦ ⑪⑧ ⑪⑨ ⑫① ⑫② ⑫③ ⑫④ ⑫⑤ ⑫⑥ ⑫⑦ ⑫⑧ ⑫⑨ ⑬① ⑬② ⑬③ ⑬④ ⑬⑤ ⑬⑥ ⑬⑦ ⑬⑧ ⑬⑨ ⑭① ⑭② ⑭③ ⑭④ ⑭⑤ ⑭⑥ ⑭⑦ ⑭⑧ ⑭⑨ ⑮① ⑮② ⑮③ ⑮④ ⑮⑤ ⑮⑥ ⑮⑦ ⑮⑧ ⑮⑨ ⑯① ⑯② ⑯③ ⑯④ ⑯⑤ ⑯⑥ ⑯⑦ ⑯⑧ ⑯⑨ ⑰① ⑰② ⑰③ ⑰④ ⑰⑤ ⑰⑥ ⑰⑦ ⑰⑧ ⑰⑨ ⑱① ⑱② ⑱③ ⑱④ ⑱⑤ ⑱⑥ ⑱⑦ ⑱⑧ ⑱⑨ ⑲① ⑲② ⑲③ ⑲④ ⑲⑤ ⑲⑥ ⑲⑦ ⑲⑧ ⑲⑨ ⑳① ⑳② ⑳③ ⑳④ ⑳⑤ ⑳⑥ ⑳⑦ ⑳⑧ ⑳⑨ ㉑① ㉑② ㉑③ ㉑④ ㉑⑤ ㉑⑥ ㉑⑦ ㉑⑧ ㉑⑨ ㉒① ㉒② ㉒③ ㉒④ ㉒⑤ ㉒⑥ ㉒⑦ ㉒⑧ ㉒⑨ ㉓① ㉓② ㉓③ ㉓④ ㉓⑤ ㉓⑥ ㉓⑦ ㉓⑧ ㉓⑨ ㉔① ㉔② ㉔③ ㉔④ ㉔⑤ ㉔⑥ ㉔⑦ ㉔⑧ ㉔⑨ ㉕① ㉕② ㉕③ ㉕④ ㉕⑤ ㉕⑥ ㉕⑦ ㉕⑧ ㉕⑨ ㉖① ㉖② ㉖③ ㉖④ ㉖⑤ ㉖⑥ ㉖⑦ ㉖⑧ ㉖⑨ ㉗① ㉗② ㉗③ ㉗④ ㉗⑤ ㉗⑥ ㉗⑦ ㉗⑧ ㉗⑨ ㉘① ㉘② ㉘③ ㉘④ ㉘⑤ ㉘⑥ ㉘⑦ ㉘⑧ ㉘⑨ ㉙① ㉙② ㉙③ ㉙④ ㉙⑤ ㉙⑥ ㉙⑦ ㉙⑧ ㉙⑨ ㉚① ㉚② ㉚③ ㉚④ ㉚⑤ ㉚⑥ ㉚⑦ ㉚⑧ ㉚⑨ ㉛① ㉛② ㉛③ ㉛④ ㉛⑤ ㉛⑥ ㉛⑦ ㉛⑧ ㉛⑨ ㉜① ㉜② ㉜③ ㉜④ ㉜⑤ ㉜⑥ ㉜⑦ ㉜⑧ ㉜⑨ ㉝① ㉝② ㉝③ ㉝④ ㉝⑤ ㉝⑥ ㉝⑦ ㉝⑧ ㉝⑨ ㉞① ㉞② ㉞③ ㉞④ ㉞⑤ ㉞⑥ ㉞⑦ ㉞⑧ ㉞⑨ ㉟① ㉟② ㉟③ ㉟④ ㉟⑤ ㉟⑥ ㉟⑦ ㉟⑧ ㉟⑨ ㊱① ㊱② ㊱③ ㊱④ ㊱⑤ ㊱⑥ ㊱⑦ ㊱⑧ ㊱⑨ ㊲① ㊲② ㊲③ ㊲④ ㊲⑤ ㊲⑥ ㊲⑦ ㊲⑧ ㊲⑨ ㊳① ㊳② ㊳③ ㊳④ ㊳⑤ ㊳⑥ ㊳⑦ ㊳⑧ ㊳⑨ ㊴① ㊴② ㊴③ ㊴④ ㊴⑤ ㊴⑥ ㊴⑦ ㊴⑧ ㊴⑨ ㊵① ㊵② ㊵③ ㊵④ ㊵⑤ ㊵⑥ ㊵⑦ ㊵⑧ ㊵⑨ ㊶① ㊶② ㊶③ ㊶④ ㊶⑤ ㊶⑥ ㊶⑦ ㊶⑧ ㊶⑨ ㊷① ㊷② ㊷③ ㊷④ ㊷⑤ ㊷⑥ ㊷⑦ ㊷⑧ ㊷⑨ ㊸① ㊸② ㊸③ ㊸④ ㊸⑤ ㊸⑥ ㊸⑦ ㊸⑧ ㊸⑨ ㊹① ㊹② ㊹③ ㊹④ ㊹⑤ ㊹⑥ ㊹⑦ ㊹⑧ ㊹⑨ ㊺① ㊺② ㊺③ ㊺④ ㊺⑤ ㊺⑥ ㊺⑦ ㊺⑧ ㊺⑨ ㊻① ㊻② ㊻③ ㊻④ ㊻⑤ ㊻⑥ ㊻⑦ ㊻⑧ ㊻⑨ ㊼① ㊼② ㊼③ ㊼④ ㊼⑤ ㊼⑥ ㊼⑦ ㊼⑧ ㊼⑨ ㊽① ㊽② ㊽③ ㊽④ ㊽⑤ ㊽⑥ ㊽⑦ ㊽⑧ ㊽⑨ ㊾① ㊾② ㊾③ ㊾④ ㊾⑤ ㊾⑥ ㊾⑦ ㊾⑧ ㊾⑨ ㊿① ㊿② ㊿③ ㊿④ ㊿⑤ ㊿⑥ ㊿⑦ ㊿⑧ ㊿⑨

本諸節の功德:

- 信者にとってのアッラーの成功の印には、審判の日に清算を受ける前にこの世で自分を顧みることができることである。
- 大きな山へのクルアーンの影響を僕たちに想起させることには、弱い人間であればなおのことそうした影響を受けて然るべきだという注意喚起がある。
- 「創造者」、「創始者」、「形容者」という名前、想定、生成、個別形容という創造の過程を指し示している。またそれらのうち一つずつ名前を言及するのは、それぞれが一度きりの性質ではなく存続することを示している。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

يَأَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا لَا تَتَّخِذُوا عَدُوِّي وَعَدُوَكُمْ أَوْلِيَاءَ تَلْقَوْنَ
إِلَيْهِم بِالْمُودَّةِ وَقَدْ كَفَرُوا بِمَا جَاءَكُمْ مِنَ الْحَقِّ يُخْرِجُونَ الرَّسُولَ
وَأَيَّاكُمْ أَنْ تُؤْمِنُوا بِاللَّهِ رَبِّكُمْ إِنْ كُنْتُمْ حَرَجْتُمْ جِهَدًا فِي سَبِيلِي
وَأَبْغَاءَ مَرْضَاتِي تُسِرُّونَ إِلَيْهِم بِالْمُودَّةِ وَأَنَا أَعْلَمُ بِمَا أَخْفَيْتُمْ
وَمَا أَعْلَنْتُمْ وَمَنْ يَفْعَلْهُ مِنْكُمْ فَقَدْ ضَلَّ سَوَاءَ السَّبِيلِ ① إِنْ
يَتَّقُوا كُفْرًا كُفْرًا كُفْرًا كُفْرًا كُفْرًا كُفْرًا كُفْرًا كُفْرًا كُفْرًا كُفْرًا
بِالسُّوءِ وَوَدُّوا لَوْ تَكْفُرُونَ ② لَنْ تَنْفَعَكُمْ أَرْحَامُكُمْ وَلَا أَوْلَادُكُمْ
يَوْمَ الْقِيَامَةِ يَفْصَلُ بَيْنَكُمْ وَاللَّهُ يَمَّا تَعْمَلُونَ بَصِيرٌ ③ فَذَكَرَتْ
لَكُمْ أُسْوَةً حَسَنَةً فِي إِبْرَاهِيمَ وَالَّذِينَ مَعَهُ إِذْ قَالُوا الْقَوْمِ هُمُ الْمُتَّكِبِينَ
بُرءٌ وَأَنْكُمْ وَمِمَّا تَعْبُدُونَ مِنْ دُونِ اللَّهِ كُفْرًا بِكُمْ وَبِدَائِبِنَا
وَبَيْنَكُمْ الْعَدَاوَةَ وَالْبَغْضَاءَ أَبَدًا حَتَّى تُؤْمِنُوا بِاللَّهِ وَحْدَهُ ④ الْآقُولُ
إِبْرَاهِيمَ لِأَبِيهِ لَأَسْتَغْفِرَنَّ لَكَ وَمَا أَمْلِكُ لَكَ مِنَ اللَّهِ مِنْ شَيْءٍ ⑤
رَبَّنَا عَلَّمَكِ نَوْكَنَا وَإِلَيْكَ آتَيْنَا وَإِلَيْكَ الْمَصِيرُ ⑥ رَبَّنَا لَا تَجْعَلْنَا
فِتْنَةً لِلَّذِينَ كَفَرُوا وَاعْرِضْنَا رَبَّنَا إِنَّكَ أَنْتَ الْعَزِيزُ الْحَكِيمُ ⑦

本章の趣旨:

不信仰者の後継となることへの警告

説明:

① アッラーを信じ、その教えにのっとって善行を行う者よ、**われ**の敵やあなたたちの敵を仲間として好意を寄せような友としてはならない。彼らはあなたたちの使徒にもたらされた教えを拒絶したのである。使徒を家から追い出し、ただただあなたたちがアッラーを主として信じるようになったために、親戚縁者のつながりを配慮することなしに、あなたたちをマッカの住まいから追い出そうとしている。**われ**のためのジハードかつ**われ**の喜びを求めて出向いたなら、彼ら不信仰者に好意を寄せてはならない。彼らの関心を買うためにムスリム側の情報をこっそりと流している。**われ**はあなたたちが隠しているものも公にしているものも知っているのだ。**われ**にとって不明なことは、そうしたことであれ他のことであれ何もない。不信仰者に対して忠誠を示したり、愛情を見せる行いをしたりする者は、正道の真ん中からは逸れてしまい、真理からは離れてしまったこととなる。

② 彼らはあなたたちに勝てば心の中に隠していた敵意を剥き出しにし、あなたたちに危害を加えようと手を伸ばすだけでなく、罵詈雑言を浴びせ、彼らと同じようにあなたたちがアッラーとその使徒を信じないようになればよいと願うだろう。

③ 親戚も子供たちも、彼らのためにあなたたちが不信仰者と仲良くしようとしても無駄である。審判の日には、アッラーがあなたたちの間を分けてしまわれるだろう。あなたたちのうち、天国の民は天国に入り、火獄の民は火獄に入るため、お互いに何かできるわけではない。アッラーはあなたたちの行いを見ておられ、**かれ**に不明なことは何一つなく、行いに応じて報いられるのである。

④ 信者よ、イブラーヒームはあなたたちやその時代の信者にとってよい模範であった。同郷の民のうち、不信仰者に向かって彼らは言った。「私たちはアッラーの他にあなたたちが崇める偶像とも、あなたたち自身とも無関係だ。私たちはあなたたちが奉じる教えを拒み、あなたたちが唯一のアッラーを信じるようになり、他には何も並べ立てないようになるまで、敵意と憎悪が明らかとなった。」だからあなたたちも彼らと同じように同郷の民の不信仰者とは絶縁すべきなのである。ただ、イブラーヒームの父親に対する、「私はアッラーにあなたのための赦し乞いをします」という言葉は例外であった。だからその点については彼を見做ってはならない。というのも、彼がそう言ったのは、父親に絶望する前の話だったからである。信者が、多神教徒の赦し乞いをすべきではない。アッラーの懲罰から身を守ることはできないからである。私たちの主よ、万事においてあなたをこそ頼みとし、悔い改めてあなたに立ち返ります。あなたこそ、審判の日の帰りどころなのです。

⑤ 私たちの主よ、不信仰者を私たちよりも優勢にすることで、私たちを彼らにとっての災難としないでください。「もし彼らが正しいのなら、我々が打ち負かすことはできなかったはずだ」と言っただろうからです。私たちの罪をお赦しください。あなたこそ威力並びがない無敵の御方であり、その創造、教え、定めにおいて英明な御方。

本諸節の功德:

- イスラームの民の情報を不信仰者に持ち寄ることは、大罪の一つである。
- 不信仰者の敵愾心は元来的なものであり、忠誠は無駄である。
- イブラーヒームが父のために赦し乞いを願ったのは、それを父に約束したからである。その父が不信仰者として臨終を迎えたためにアッラーがそれを禁じてからは、その赦し乞いをやめたのだった。

④ この良い模範に従うのは、アッラーにこの世とあの世の善良さを望む者である。この良い模範に従わない者は、本当にアッラーは満ち足りた御方であられ、僕たちの忠義を必要としておられるわけではないということを知れ。どんな時も、誉め称えられる御方であられる。

⑤ 信者よ、ひょっとするとアッラーはあなたたちと敵対する不信仰者の間にイスラームへのアッラーのお導きをいざなう親愛の念をもたらして下さるかもしれない。そうすれば、彼らはあなたたちにとって信仰の上での兄弟となるのである。アッラーは彼らの心を信仰に転じさせることもできる全能な御方であり、悔い改める者をよく赦す慈悲深い御方。

⑥ イスラームのせいであなたたちと戦うわけでも迫害するわけでもない者に、公平でよい接し方をすることをアッラーが禁じることはない。相手相応のあなたに対する権利に見合う公平な対応をすることも同様である。本当にアッラーは自分自身をはじめ、家族や関係者に公平な人を愛でられる。

⑦ むしろアッラーが禁じられるのは、あなたたちの信仰を原因に戦い、迫害し、迫害を支援する者と交友を結ぶことである。あなたたちの中で彼らと交友を結ぶ者は、アッラーのご命令に背くことで破滅の場に自ら足を踏み入れており、己に不義をなす者である。

⑧ アッラーを信じ、その教えにのって善行を行う者よ、女性の信者が不信仰の地から信仰の地へと移住してきた時には、彼女たちの信仰が本物かどうか試すがよい。アッラーは彼女たちの信仰をよりよく知っておられ、彼女たちの心が包み込むことも全てご存知であられる。もしあなたたちが彼女たちの信仰を試した後でそれが本物だということがはっきりしたなら、彼女たちを不信仰の夫のもとへ戻してはならない。信仰のある女性が不信仰な男性と結婚することは許されず、その逆もまた然りだからである。だから彼女たちの夫には彼らが婚資金として与えたものを与えよ。信者よ、彼女たちが結婚待機期間を経てからであれば、婚資金を与えて彼女たちと結婚することは罪ではない。また、もし妻が不信仰者の場合、あるいはイスラームを背教した場合は、彼女の不信仰によって結婚は破棄されたため、彼女を留め置いてはならない。彼女たちの婚資金として費やした分は、不信仰者側に求め、彼らは彼らでイスラームへ改宗した元妻に支払った婚資金相当を求めさせるがよい。言及された婚資金の返還がアッラーの定めであり、かれはお望みのことを定められる。アッラーはあなたたちの状態も行動も知っておられ、不明なことは何一つない。その定めにおいて英明な御方。

⑨ もしあなたたちの妻を背教者として不信仰者のもとへ追い出さなければならなくなり、婚資金を不信仰者側に求めても支払われなかったなら、またその上で不信仰者からの戦利品を得たならば、妻の出で行った夫へ婚資金に費やした分と相応のものを与えよ。アッラーのご命令を果たし、禁止を避けることで、あなたたちの信じるアッラーを意識するのだ。

本諸節の功徳:

- アッラーが人心を敵愾心から愛情へと変え、不信仰から信仰へと変える様子には、人の心がいかに至高の神の手中にあるかを示唆している。よって僕たる人間は、信仰の定着を神にこそ求めるべきである。
- 同じ不信仰者とはいえ、戦闘員と非戦闘員は対応(裁定)を分けるべきである。
- 啓典の民ではない不信仰者の女性とは最初から最後まで結婚してはならず、女性信者の場合は不信仰者の男性との結婚も同様に禁じられる。

لَقَدْ كَانَ لَكُمْ فِيهِمْ أُسْوَةٌ حَسَنَةٌ لِّمَن كَانَ يَرْجُوا اللَّهَ وَالْيَوْمَ الْآخِرَ
 وَمَن يَتَوَلَّ فَإِنَّ اللَّهَ هُوَ الْعَلِيُّ الْحَمِيدُ ⑥ عَسَى اللَّهُ أَن يَجْعَلَ بَيْنَكُمْ
 وَبَيْنَ الَّذِينَ عَادَيْتُم مِّنْهُمْ مَّوَدَّةً وَاللَّهُ قَدِيرٌ وَاللَّهُ غَفُورٌ رَّحِيمٌ
 ⑦ لَا يَنْهَى اللَّهُ عَنِ الَّذِينَ لَمْ يُقْتَلُوا فِي الدِّينِ وَلَمْ يُخْرِجُوا
 مِّن دِينِكُمْ أَنَّ تَبَرُّوهُمْ وَتُقَسِّطُوا إِلَيْهِمْ إِنَّ اللَّهَ يُحِبُّ الْمُقْسِطِينَ
 ⑧ إِنَّمَا يَنْهَى اللَّهُ عَنِ الَّذِينَ قَتَلُوا فِي الدِّينِ وَأَخْرَجُوا
 مِّن دِينِكُمْ وَظَاهَرُوا عَلَىٰ إِخْرَاجِكُمْ أَن تَوَلَّوْهُمْ وَمَن يَتَوَلَّهُمْ فَأُوْلَٰئِكَ
 هُمُ الظَّالِمُونَ ⑨ يَا أَيُّهَا الَّذِينَ ءَامَنُوا إِذَا جَاءَكُمُ الْمُؤْمِنَاتُ مِمَّنْ
 فَآمَتَّجُوهُنَّ اللَّهُ أَعْلَمَ بِإِيمَانِهِنَّ فَإِنِ عَمَسْتُمُوهُنَّ مُؤْمِنَاتٍ فَلَا
 تَرْجِعُوهُنَّ إِلَى الْكُفَّارِ لَأَهِنَّ حُلُّهُنَّ وَلَا هُمْ يَحِلُّونَ لَهُنَّ وَءَأْتَوْهُم
 مَا أَنفَقُوا وَلَا جُنَاحَ عَلَيْكُم أَن تَنْكُحُوهُنَّ إِذَا ءَاتَيْتُمُوهُنَّ أَجْرَهُنَّ
 وَلَا تُمْسِكُوا بِعِصَمِ الْكُفَّارِ وَتَسْأَلُوا مَا أَنفَقْتُمْ وَلَيْسَ لَكُمُ أَن تَسْأَلُوا
 ذَٰلِكُمْ حُرِّمَ اللَّهُ بِحُكْمِ رَبِّكَ وَاللَّهُ عَلِيمٌ حَكِيمٌ ⑩ وَإِن فَاتَكُمْ
 شَيْءٌ مِّنْ أَرْوَاجِكُمْ إِلَى الْكُفَّارِ فَعَاقِبْتُمْ فَانُوا الَّذِينَ ذَهَبَتْ
 أَرْوَاجُهُمْ مِّثْلَ مَا أَنفَقُوا وَاتَّقُوا اللَّهَ الَّذِي أَتَمَّ بِهِهُ الْمُؤْمِنُونَ ⑪

يَأَيُّهَا النَّبِيُّ إِذَا جَاءَكَ الْمُؤْمِنَاتُ بِيَاغِبِكَ عَلَيَّ أَنْ لَا يُبَشِّرَنَّ بِاللَّهِ
 شَيْئًا وَلَا يَسْرِقَنَّ وَلَا يَزِينَنَّ وَلَا يَقْتُلَنَّ أَوْلَادَهُنَّ وَلَا يَأْتِيَنَّ
 بِبُهْتَانٍ يَفْتَرِينَهُ بَيْنَ أَيْدِيهِنَّ وَأَرْجُلِهِنَّ وَلَا يَعْصِبَنَّكَ فِي
 مَعْرُوفٍ فَيَأْبَعَهُنَّ وَأَسْتَعْفِفْ لَهُنَّ اللَّهُ إِنْ اللَّهُ عَفُورٌ رَحِيمٌ
 ١٣ يَأَيُّهَا الَّذِينَ ءَامَنُوا لَا تَتَوَلَّوْا قَوْمًا غَضِبَ اللَّهُ عَلَيْهِمْ قَدْ
 يَدْسُؤْنَ مِنَ الْآخِرَةِ كَمَا يَبِئْسَ الْكُفَّارُ مِنْ أَصْحَابِ الْقُبُورِ ١٤

سُورَةُ الصَّفِّ

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ
 سَبَّحَ لِلَّهِ مَا فِي السَّمَوَاتِ وَمَا فِي الْأَرْضِ وَهُوَ الْعَزِيزُ الْحَكِيمُ
 ١ يَأَيُّهَا الَّذِينَ ءَامَنُوا لِمَ تَقُولُونَ مَا لَا تَفْعَلُونَ ٢
 كَبُرَ مَقْتًا عِنْدَ اللَّهِ أَنْ تَقُولُوا مَا لَا تَفْعَلُونَ ٣ إِنَّ
 اللَّهَ يُحِبُّ الَّذِينَ يُقِيمُونَ فِي سَبِيلِهِ صَفًّا كَأَنَّهُمْ
 بُنْيَانٌ مَرْصُورٌ ٤ وَإِذْ قَالَ مُوسَى لِقَوْمِهِ يَا قَوْمِ لِمَ
 تَقُولُونَ مَا لَا تَفْعَلُونَ ٥ وَأَيُّهَا الَّذِينَ ءَامَنُوا لَا تَتَوَلَّوْا قَوْمًا غَضِبَ اللَّهُ عَلَيْهِمْ قَدْ
 يَدْسُؤْنَ مِنَ الْآخِرَةِ كَمَا يَبِئْسَ الْكُفَّارُ مِنْ أَصْحَابِ الْقُبُورِ ٦

⑫ 預言者よ、女性の信者があなたのもとにやって来て、マッカ開城のときと同じようにアッラーには何も同位者を置かず、**かれ**のみを崇め、盗みをせず、姦淫を犯さず、イスラーム以前の無明時代の悪習に倣った子供殺しをせず、不倫の子を夫に帰すことはせず、葬儀の際に取り乱したり、剃髪をしたり、服を破ったりと良識に背くことはしないとあなたに誓いを立てるなら、誓約後に彼女らのためにアッラーのお赦しを願ってやれ。本当にアッラーは**かれ**のもとへ立ち返る者へはお赦し深く、慈悲深い。

こうして本章がアッラーの敵と交友を結ぶことへの警告で始まったように、それを強調するように同じことを警告して締めくくべく、至高の**かれ**は仰せられた。

⑬ アッラーを信じ、その教えにのっとって善行を行う者よ、あの世を固く信じない、アッラーのお怒りをこうむった民と交友を結んではならない。復活を拒むことから死者が戻ることに絶望しているように、彼らはあの世にも絶望しているのである。

61. 整列章(アッ・サッフ)

マディーナ啓示

本章の趣旨:

アッラーの教えを支援するよう、信者を鼓舞すること

説明:

① 天地にあるもので、およそ似つかわしくないことから、アッラーは全て超越しておられる。**かれ**は威力並びない無敵の御方であり、誰一人打ち負かすことはできない。その創造、計画、教えにおいて英明な御方であられる。

② アッラーを信じる者よ、実際にはしていないことをしたと言うのか。「私はこの自分の剣で戦ったのだ」と、実際には戦ってもないのに言い張る者のように。

③ 行っていないことを行ったかのように言うことを、アッラーは激しく嫌悪される。信者はアッラーに対して誠実であるべきであり、その言葉を行動が証明してみせるべきなのである。

④ 本当にアッラーは**かれ**のためにそのお喜びを求めて重ね合わさった建物のように整然と並んで戦いに臨む信者を愛でられる。こうしてアッラーが戦いについて言及され、**かれ**のために隊列を組んで戦う信者を褒め称え、ムーサーとイーサーの民がいかにそれぞれの使徒に背いたかが述べられる。信者もまた、預言者に背かないようにという注意喚起である。

⑤ 使徒よ、ムーサーがその民に言ったときのことを思い起こせ。「あなたたちは私が使徒として遣わされたことを知っていながら、なぜ私の言うことに従わないのですか。」そして彼らが真理から逸れて道を踏み外すと、アッラーは彼らの心を真理から逸らせてしまわれた。**かれ**に背く民をアッラーは真理へと導いてはくださらないのである。

本諸節の功德:

- 権力者に神を意識して聞き従い、誓約を交わすことの合法性。
- 誠実であること、言動一致の努力義務。
- アッラーは人間に善悪の道を明らかにしてくださった。よって人間が自ら迷妄を選び、悔い改めることをしなければ、アッラーはその迷妄ぶりを増大することでその人間を罰せられる。

⑧使徒よ、マルヤムの子イーサーが言ったときのことを思い起こせ。「イスラエルの民よ、私は以前下された律法を確証するためにアッラーがあなたたちへ遣わした使徒です。私が初めての使徒というわけではありません。また私は、私の後にやって来るアハマドという使徒到来の福音を伝える者でもあります。」だが、イーサーが彼の正しさを証明する数々の証拠をもたらすと、「これは明らかな魔術だ。我々は従わない」と言った。

⑨アッラーにのみ純粋にお仕えるイスラームの教えにいざなわれておきながら、**かれ**に別の存在を同位者として並べ立てることよりもアッラーに対してひどい嘘をつく者はいない。多神崇拝や違反行為で自分を害する民を、アッラーが正道へ導かれることはないのである。

⑩これら真理を拒絶する者は、真理を歪めようとする虚言でアッラーの光を消そうとする。だがアッラーはその教えの影響力を世界の東西で広め、言説の地位を高めることでその光を完全なものとする。

⑪アッラーこそが導きと善良さへの善導かつ役立つ知識と善行の教え、イスラームの教えと共にその使徒ムハンマドを遣わされた御方であられる。それはたとえ多神教徒がイスラームの台頭を嫌悪しようとも、全ての宗教の前にイスラームを優勢に立たせるためであった。

⑫アッラーを信じ、その教えにのっとって善行を行う者よ、痛ましい懲罰からあなたたちを救ってくれ、儲けとなる商売についてお教えしようか。

⑬この儲かる商売とは、アッラーと使徒を信じ、至高の**かれ**のために自分の財産を費やし、**かれ**を喜ばせるために命をかけてお仕えることである。あなたたちにそれがわかるなら、そうした行いこそがあなたたちのためにより良いことだから、率先して臨むがよい。

⑭この商売の儲けとは、アッラーがあなたたちの罪をお赦し下さり、城下や木々の下を川が流れる楽園に入れて下さることである。楽園でのよい住まいからは、もう引越す必要はない。そうした報奨こそが、どんな報奨にも引けを取らない偉大な報奨なのである。

⑮またこの商売の儲けには、この世で先に得られる嬉しいものもある。アッラーがあなたたちを敵に勝たせてくれるというものである。近いうちに成就するマッカ開城やその他の征服である。使徒よ、この世での勝利やあの世での楽園の獲得といった信者の喜ぶことを知らせるがよい。

⑯アッラーを信じ、その教えにのっとって善行を行う者よ、イーサーがその弟子たちに「アッラーへと向かう上で私を助けてくれる人は誰か」と言ったときに、「私たちがアッラーの助っ人です」と彼を助けたように、あなたたちの使徒が宗教をもたらしたときにその教えを助けるアッラーの助っ人であれ。かつてイスラエルの民のうち一部はイーサーを信じ、別の一部は彼を拒んだ。**われら**はイーサーを助けた者を助け、拒んだ者を打ち負かすようになったのである。

本諸節の功德:

- 過去の天啓において預言者ムハンマドの到来が告げられているのは、彼の預言者性の正しさを示している。
- 神の教えが優勢となるのは、神の摂理である。
- 信仰を持ち、アッラーに仕えて懸命に努力することは、天国入りのきっかけとなる。
- アッラーは時として信者の報奨をこの世で与えて下さることもあり、あの世に取り置いて下さることもある。いずれにしても、無駄にされることはない。

وَذَقَالَ عِيسَى ابْنُ مَرْيَمَ بَنِي إِسْرَائِيلَ إِنِّي رَسُولُ اللَّهِ إِلَيْكُمْ مُصَدِّقًا لِمَا بَيْنَ يَدَيَّ مِنَ التَّوْرَةِ وَمُبَشِّرًا بِرَسُولٍ يَأْتِي مِنْ بَعْدِي اسْمُهُ أَحْمَدٌ فَلَمَّا جَاءَهُمْ بِالْبَيِّنَاتِ قَالُوا هَذَا سِحْرٌ مُّبِينٌ ﴿٦١﴾ وَمَنْ أَظْلَمُ مِمَّنْ افْتَرَى عَلَى اللَّهِ الْكُذِبَ وَهُوَ يُدْعَى إِلَى الْإِسْلَامِ وَاللَّهُ لَا يَهْدِي الْقَوْمَ الظَّالِمِينَ ﴿٦٢﴾ يُرِيدُونَ لِيُظْفَرُوا نُورَ اللَّهِ بِأَفْوَاهِهِمْ وَاللَّهُ مُتِمُّ نُورِهِ وَلَوْ كَرِهَ الْكَافِرُونَ ﴿٦٣﴾ هُوَ الَّذِي أَرْسَلَ رَسُولَهُ بِالْهُدَى وَدِينِ الْحَقِّ لِيُظْهِرَهُ عَلَى الدِّينِ كُلِّهِ وَلَوْ كَرِهَ الْمُشْرِكُونَ ﴿٦٤﴾ يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا هَلْ أَذْكَرُ عَلَى تَجْرِيقٍ تُنَجِّجُكُمْ مِنْ عَذَابِ أَلِيمٍ ﴿٦٥﴾ تُوْمِنُونَ بِاللَّهِ وَرَسُولِهِ وَتُجَاهِدُونَ فِي سَبِيلِ اللَّهِ بِأَمْوَالِكُمْ وَأَنْفُسِكُمْ ذَلِكُمْ خَيْرٌ لَكُمْ إِنْ كُنْتُمْ تَعْلَمُونَ ﴿٦٦﴾ يَغْفِرْ لَكُمْ ذُنُوبَكُمْ وَيُدْخِلْكُمْ جَنَّاتٍ تَجْرِي مِنْ تَحْتِهَا الْأَنْهَارُ وَمَسْكِنٍ طَيِّبَةٍ فِي جَنَّاتٍ عَدْنٍ ذَلِكَ الْفَوْزُ الْعَظِيمُ ﴿٦٧﴾ وَأُخْرَى يُحِبُّونَهَا نَصْرٌ مِنَ اللَّهِ وَفَتْحٌ قَرِيبٌ وَبَشِيرٌ الْمُؤْمِنِينَ ﴿٦٨﴾ يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا كُونُوا أَنْصَارَ اللَّهِ كَمَا قَالَ عِيسَى ابْنُ مَرْيَمَ لِلْحَوَارِيِّينَ مَنْ أَنْصَارِي إِلَى اللَّهِ قَالَ الْحَوَارِيُّونَ نَحْنُ أَنْصَارُ اللَّهِ فَأَمَنْتَ طَائِفَةٌ مِنْ بَنِي إِسْرَائِيلَ وَكَفَرَتَ طَائِفَةٌ فَأَيَّدْنَا الَّذِينَ آمَنُوا عَلَى عَدُوِّهِمْ فَأَصْبَحُوا ظَاهِرِينَ ﴿٦٩﴾

البقرة
١١

سُورَةُ الْحَجَّةِ

البقرة
٢٢

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

يُسَبِّحُ لِلَّهِ مَا فِي السَّمَوَاتِ وَمَا فِي الْأَرْضِ الْمَلَائِكَةُ الْقُدُّوسُ الْعَزِيزُ
 الْحَكِيمُ ﴿١﴾ هُوَ الَّذِي بَعَثَ فِي الْأُمَمِينَ رَسُولًا مِّنْهُمْ يَتْلُو عَلَيْهِمْ
 آيَاتِهِ وَيُزَكِّيهِمْ وَيُعَلِّمُهُمُ الْكِتَابَ وَالْحِكْمَةَ وَإِنْ كَانُوا
 مِن قَبْلُ لَفِي ضَلَالٍ مُّبِينٍ ﴿٢﴾ وَآخَرِينَ مِنْهُمْ لَمَّا يَلْحَقُوا بِهِمْ
 وَهُوَ الْعَزِيزُ الْحَكِيمُ ﴿٣﴾ ذَلِكَ فَضْلُ اللَّهِ يُؤْتِيهِ مَن يَشَاءُ وَاللَّهُ
 ذُو الْفَضْلِ الْعَظِيمِ ﴿٤﴾ مَثَلُ الَّذِينَ حُمِّلُوا التَّوْرَةَ ثُمَّ لَمْ
 يَحْمِلُوهَا كَمَثَلِ الْحِمَارِ يَحْمِلُ أَسْفَارًا بِئْسَ مَثَلُ الْقَوْمِ
 الَّذِينَ كَذَّبُوا بِآيَاتِ اللَّهِ وَاللَّهُ لَا يَهْدِي الْقَوْمَ الظَّالِمِينَ
 ﴿٥﴾ قُلْ يَا أَيُّهَا الَّذِينَ هَادُوا إِنْ زَعَمْتُمْ أَنكُمْ أَوْلِيَاءُ لِلَّهِ مِن
 دُونِ النَّاسِ فَتَمَنَّوْا الْمَوْتَ إِنْ كُنْتُمْ صَادِقِينَ ﴿٦﴾ وَلَا يَتَمَنَّوْنَهُ
 أَبَدًا بِمَا قَدَّمَتْ أَيْدِيهِمْ وَاللَّهُ عَلِيمٌ بِالظَّالِمِينَ ﴿٧﴾ قُلْ
 إِنَّ الْمَوْتَ الَّذِي تَفِرُّونَ مِنْهُ فَإِنَّهُ مُلْقِيكُمْ ثُمَّ تُرَدُّونَ
 إِلَىٰ عَلَيْهِ الْعُيُوبِ وَالشَّهَادَةُ فَيَنْبَغُ عَلَيْكُمْ بِمَا كُنتُمْ تَعْمَلُونَ ﴿٨﴾

الحزب
٥٤

本章の趣旨:

使徒を遣わして導くことでこの共同体を厚遇されたこと、及び使徒への服従の義務。

説明:

① 諸天にあり地にあるすべての被造物は、アッラーを超越したものとして、すべての不適切な欠陥から清める。かれは唯一の単独な王者で大権を持ち、欠陥はなく、誰も支配できず偉力大で、その創造や法規定や定めにおいて英明である。

② かれこそが、読み書きをしないアラブ人の間に、かれらの中から使徒を遣わし、印を読み聞かせて、かれらを不信仰や不道徳から清め、クルアーンとスンナを教えた方である。遣わされる以前には、明らかにかれらは邪道にあった。偶像を崇拜し、流血騒ぎや家族関係の断絶もあった。

③ この使徒を、まだ到来しないが、これからやって来るアラブ人やその他の民族にも遣わした。かれは偉力大で誰も支配できず、その創造や法規定や定めにおいて英明である。

④ 使徒をアラブ人やその他に遣わすということだが、これはアッラーの恩寵で、かれの御心に適う者にこれを与えられる。アッラーは偉大な恩寵の主で、使徒をこの共同体、そして全人類に遣わすことも、その一部である。

⑤ 律法を背負わされて、それを果たさないユダヤ教徒たちを例えれば、書物を沢山運ぶ口バのようなものである。本なのか、何なのか、一体何を背負っているか知らない。アッラーの啓示を拒否する民のように醜く、真実を傷つけたというこれら不正の民が成功することはない。

⑥ 使徒よ、言ってみよう。ユダヤ教が歪曲された後もそれを信奉する者よ、他の人々をさし置いて、あなた方だけがアッラーに親しいと言いはるなら、死を望むがよい。そうすれば言い張る通り、あなた方にアッラーは早々に栄誉を与えるだろう。あなた方の祈りの中で、他の人々をさし置いて、あなた方だけがアッラーに親しいと言いはる、その言葉が本当なら。

⑦ だがかれらは、不信仰や反逆や不正、さらに律法の歪曲や変更など、その手で今まで犯したことのため、決して死を望まないだろう。それどころか、現世での永劫を望むのだ。しかしアッラーは不正を行う者を、真に熟知されて、かれらに報いられる。

⑧ 使徒よ、これらのユダヤ教徒に言え。あなた方が逃れようとする死は、遅かれ早かれ、必ずあなた方を襲う。それから幽玄界と可視界を知っておられるお方に送り返され、あなた方が現世でしてきたことすべてを、かれが知らせ、そして報いられる。

本諸節の功德:

- 預言者(アッラーの祝福と平安を)が人類全体に、特に無知と喪失状態にあったアラブ人に遣わされたことは偉大な恩恵である。
- 導きはアッラーのみから来る。それはかれに求め、かれへの服従から得られるものである。
- ユダヤ教徒がアッラーの友であるという主張は拒否されるが、それが本当ならば、死を望んでみよという挑戦が可能である。というのは、友は好きな人に会うことを熱望するからだ。

يَأَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا إِذَا نُودِيَ لِلصَّلَاةِ مِنْ يَوْمِ الْجُمُعَةِ فَاسْعَوْا إِلَى ذِكْرِ اللَّهِ وَذَرُوا الْبَيْعَ ذَلِكَ خَيْرٌ لَكُمْ إِنْ كُنْتُمْ تَعْمَلُونَ ﴿١﴾ فَإِذَا قُضِيَتِ الصَّلَاةُ فَانْتَشِرُوا فِي الْأَرْضِ وَابْتَغُوا مِنْ فَضْلِ اللَّهِ وَاذْكُرُوا اللَّهَ كَثِيرًا لَعَلَّكُمْ تُفْلِحُونَ ﴿٢﴾ وَإِذَا رَأَوْا تِجْرَةً أَوْ لَهْوًا أَنْفَضُوا إِلَيْهَا وَتَرَكُوكَ قَائِمًا قُلْ مَا عِنْدَ اللَّهِ خَيْرٌ مِنَ اللَّهْوِ وَمِنَ التِّجَارَةِ وَاللَّهُ خَيْرُ الرَّازِقِينَ ﴿٣﴾

سُورَةُ الْمُنَافِقُونَ

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ
 إِذَا جَاءَكَ الْمُنَافِقُونَ قَالُوا نَشْهَدُ إِنَّكَ لَرَسُولُ اللَّهِ وَاللَّهُ يَعْلَمُ إِنَّكَ لَرَسُولُهُ وَاللَّهُ يَشْهَدُ إِنَّ الْمُنَافِقِينَ لَكَاذِبُونَ ﴿١﴾ اتَّخَذُوا أَيْمَانَهُمْ جُنَّةً فَصَدُّوا عَن سَبِيلِ اللَّهِ إِنَّهُمْ سَاءَ مَا كَانُوا يَعْمَلُونَ ﴿٢﴾ ذَلِكَ بِأَنَّهُمْ آمَنُوا ثُمَّ كَفَرُوا فَطُبِعَ عَلَى قُلُوبِهِمْ فَهُمْ لَا يَفْقَهُونَ ﴿٣﴾ وَإِذَا رَأَيْتَهُمْ تُعْجِبُكَ أَجْسَامُهُمْ وَإِنْ يَقُولُوا تَسْمَعُ لِقَوْلِهِمْ كَأَنَّهُمْ خُشُبٌ مُسْنَدَةٌ يُحَسِّبُونَ كُلَّ صَيِّحَةٍ عَلَيْهِمْ هُمُ الْعَدُوُّ فَاحْذَرْهُمْ قَاتَلَهُمُ اللَّهُ أَنْ يَأْتُوا بِكُفْرٍ كَثِيرٍ ۗ

① 信仰する人よ、また定められたことを守る人よ、合同礼拝の日の礼拝の呼びかけが唱えられ、説教師が台に立ったならば、マズドへ急ぎ説教を聞き礼拝せよ。そして商売から離れ、帰依に没頭せよ。信者よ、合同礼拝の呼び掛けの後はそのように尽力し、商売を離れることが、あなた方にとり最も善いことなのだ。それが分かっているならば、アッラーの命令に従え。

② 合同礼拝が終わったならば、あなた方は方々に散り、許された収入を図り、必要な庶務を果たすのだ。アッラーの恩寵を求め、収入を図り収益を得て糧を得る際には、アッラーを多く唱念せよ。欲しいものを得て、また恐れるものから救われるために、それを失念するのではない。

③ しかしムスリムの中には、商いや遊び事を見かけると、あなたを説教台に立ったままにして、そちらに飛び散ってしまう者たちがいる。言うてやるがいい。アッラーの正しい行いに対するご褒美は、あなた方を出て行かせた理由である商売や遊戯よりも良いのだ。そしてアッラーは最善の糧の供給者だと。

63. 偽信者たち章(アル・ムナーフィクーン)
 マディーナ啓示

本章の趣旨:
 偽信者たちの説明とかれらに注意するようにとの警告

説明:
 ① 使徒よ、イスラームを装うが不信仰を内に秘めた偽信者たちがあなた(ムハンマド)のところにやって来ると、われわれはあなたが、アッラーの使徒であることを証言すると言う。そしてアッラーは、あなたが確かに使徒であることを知っておられる。またアッラーは、偽信者たちが心からはあなたが真にその使徒であるとは言っていないことを証言される。

② かれらはそのアッラーへの誓いを、殺されたり捕獲されたりすることから逃れるための隠れ蓑や防護とするのだ。そうして人々の心の中に疑念を生じ、あらぬ噂を広めて、アッラーの道から人々を妨げているのだ。偽善と偽の信仰証言ほど、劣悪なものはない。

③ それはかれらが一度は嘘で信仰したが、その信仰は心に届かず、それから密かに不信心になったためである。かれらの心は封じられ、そのため信仰は心に入らなくなった。心が封じられると、正しいことや間違いのないことが分からなくなるのだ。

④ あなたがかれらを見ると、かれらの立派な体つきに驚くだろう。かれらは若々しくて楽しそうで、かれらが語れば、あなたはその有弁さに引かれて、それに耳を傾けるだろう。だがかれらは、壁に寄りかかった材木のようなもので、理解せず、注意しない。かれらは臆病でどんな声であっても、自分たちを攻めてくると勘違いするのだ。かれらこそが本当の敵なので、あなたの秘密を暴露し、何か悪巧みをしないか、十分に用心するように。アッラーよ、かれらを滅亡させたまえ。かれらは、明らかな証拠と証明があるというのに、どうして信仰から逃れることができるのか。

本諸節の功德:
 ● 金曜礼拝の呼びかけがあれば、現世のことは離れて礼拝に向かうべきである。ただし正当な理由があれば別だ。
 ● 偽信者たち章は、偽信者の問題の大きさとその秘やかさに、注意を喚起している。
 ● 外見の良さや口の上手さではなく、内面の正しさを考慮すべきである。

وَإِذَا قِيلَ لَهُمْ تَعَالَوْا يَسْتَغْفِرْ لَكُمْ رَسُولُ اللَّهِ لَوَّازُءٌ وَسُهُمٌ
 وَرَأَيْتَهُمْ يَصُدُّونَ وَهُمْ مُسْتَكْبِرُونَ ﴿٥﴾ سَوَاءٌ عَلَيْهِمْ
 أَسْتَغْفَرْتَ لَهُمْ أَمْ لَمْ تَسْتَغْفِرْ لَهُمْ لَنْ يَغْفِرَ اللَّهُ لَهُمْ
 إِنَّ اللَّهَ لَا يَهْدِي الْقَوْمَ الْفَاسِقِينَ ﴿٦﴾ هُمُ الَّذِينَ يَقُولُونَ
 لَا تُنْفِقُوا عَلَيَّ مِنْ عِنْدِ رَسُولِ اللَّهِ حَتَّىٰ يَنْفَضُوا وَيَلَّيْهِ
 خَزَائِنُ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ وَلَكِنَّ الْمُنَافِقِينَ لَا يَفْقَهُونَ
 ﴿٧﴾ يَقُولُونَ لَيْنَ رَجَعْنَا إِلَى الْمَدِينَةِ لَيُخْرِجَنَّ الْأَعَزُّ
 مِنْهَا الْأَذَلَّ وَلِلَّهِ الْعِزَّةُ وَلِرَسُولِهِ وَلِلْمُؤْمِنِينَ وَلَكِنَّ
 الْمُنَافِقِينَ لَا يَعْلَمُونَ ﴿٨﴾ يَا أَيُّهَا الَّذِينَ ءَامَنُوا لَا تَتَّبِعُوا
 أَمْوَالَكُمْ وَلَا أَوْلَادَكُمْ عَنْ ذِكْرِ اللَّهِ وَمَنْ يَفْعَلْ
 ذَلِكَ فَأُولَئِكَ هُمُ الْخَاسِرُونَ ﴿٩﴾ وَأَنْفِقُوا مِنْ مَّا رَزَقْنَاكُمْ
 مِمَّن قَبْلَ أَنْ يَأْتِي أَحَدَكُمْ الْمَوْتُ فَيَقُولُ رَبِّ لَوْلَا أَخَّرْتَنِي
 إِلَىٰ أَجَلٍ قَرِيبٍ فَأَصَّدَّقَ وَأَكُن مِّنَ الصَّالِحِينَ ﴿١٠﴾ وَلَنْ
 يُؤَخِّرَ اللَّهُ نَفْسًا إِذَا جَاءَ أَجَلُهَا وَاللَّهُ خَبِيرٌ بِمَا تَعْمَلُونَ ﴿١١﴾

١٨ آياتها

سُورَةُ الْمُتَفِقِينَ

٢٤ نزلها

⑤かれらにこちらへ来て、してしまったことを謝れ、そうすればアッラーの使徒があなたの方のために御赦しを祈るであろうと言われる。そうすると、あなたはかれらが頭を傾け、馬鹿にして侮蔑して、傲慢に真実を拒否し、服従することから背を向けて去るのを見るだろう。

⑥使徒よ、あなたがかれらの罪のために御赦しを祈っても、また祈らなくても、アッラーは、決してかれらを御赦しにならない。真にアッラーは、帰依しない人々や掟に背く者を導かれない。

⑦かれらは言う、アッラーの使徒と一緒にマディーナ近くの貧者や砂漠のアラブ人に施しをするな。どうせかれらは、かれから去ってしまうからと。ところが諸天と地の財宝はアッラーのみのもので、お望みの人にその財宝から施される。偽信者たちは、その財宝が至高なるアッラーの手元にあることを理解していない。

⑧かれらの頭領である、アブドッラー・ビン・ウバイイは、われわれがマディーナの町に帰れば、わたしのような有力な者が、ムハンマドやその連中のような無力な者たちを必ず追い払うと言う。およそ偉力は、アッラーと使徒、そしてその信者たちにあり、アブドッラー・ビン・ウバイイとその従者にあるのではない。だが偽信者たちは、偉力はアッラー、その使徒、それから信者にあることを知らないのだ。

⑨アッラーを信仰し、その命令に服する人よ、あなた方の財産や子女に心を奪われて、礼拝やイスラームの儀礼を疎かにしてはならない。あなた方の財産や子女に心を奪われて、礼拝やイスラームの儀礼を疎かにする者は、復活の日には自身もその家族も損失をこうむることなる。

⑩死があなた方にやって来る前にアッラーが与えたものから施すのだ。その時になって、主よ、何故あなたは暫くの間の猶予を与えられないのですか、そうすればわたしは定め

しは定め

⑪至高なるアッラーはどの魂にも、その定めの時がやって来て、寿命が終わったら猶予を与えられないのだ。アッラーは、あなたの方の行くことを知り尽くしておられる。あなた方の行動で知られないものはないのであり、それにアッラーは報いられる、善には善を、悪には悪を。

本諸節の功德:

- 助言を無視し、傲慢であるのは、偽信者の証である。
- 宗教の敵の手段は、ムスリムに対する経済的包圍網である。
- 資財と子弟のことで手一杯となると、アッラーを唱えることに危機が及ぶ。

本章の趣旨:

不信仰とその民への注意と復活の日の不信仰者の損失

説明:

① 諸天にあり地にあるすべての被造物は、アッラーを欠陥はなく超越し、完璧無欠なものとして讃える。大権はかれのものであり、かれ以外には王はいない。称えることも、またかれのみへのもの。かれは万能で、できないことはない。

② 人々よ、かれこそは、あなた方を創られた方である。ところがあなた方には地獄行きの不信仰者も、また樂園行きの信者もいる。アッラーは、あなた方の行うことを洞察される。行動を知り尽くし、それにより報われる。

③ 真理のために諸天と地を創造され、無駄に創造されたのではない。賜物として恩寵として、あなた方を形作って、美しい姿にされた。望むならば、醜くされたであろう。また復活の日には、かれにのみ行き所がある。あなた方の行為により、善には善で、悪には悪で報われる。

④ 諸天と地におけるすべてのものを知り、あなた方の隠すものも、現すものも知っている。アッラーは、胸の中のよいことも悪いことも知っている。何も隠せないのだ。

⑤ 多神教徒たちよ、以前に信仰を否定した者たちの知らせが、あなた方に達しなかったのか。ヌーフの民、アード(の民)、サムード(の民)など、かれらは現世の不信仰の結果を味わい、来世でもまた厳しい罰を受ける。いや実にそれらの知らせは、あなた方にも来たのだから、その結末を考えてみる。かれらのようになる前に、よく悔い改める。

⑥ かれらが罰を受けたのは、使徒たちがさまざまな明証と明白な証拠をもってかれらのもとに来たのに、われわれと同じ人間がわれわれを真実に導くことなどあるだろうかと言ったためである。それでかれらは信じず、背き去った。アッラーは、それを痛痒とも感じず、かれらの信仰や服従を必要とされない。かれらの信仰は何も増やすところはなく、アッラーは僕を必要とされずに豊かで、その言動において称賛されるべきお方である。

⑦ 不信心な者は、死後においてアッラーによる復活はありえないと主張する。使徒よ、言え。復活を否定する者よ、主に誓って言うが、あなた方は必ず復活させられる。それからあなた方の現世で行ったことが、必ず知らされる。復活はアッラーにおいては容易なこと。あなた方を創造されたお方は、死後あなた方を復活させることが出来、行いの精算をして、報奨を報われる。

⑧ 人々よ、だからアッラーとその使徒、そしてわれらが使徒に下したクルアーンを信じよ。本当にアッラーはあなた方の行ったことを知り尽くされている。行動は何も隠せず、それにより報われる。

⑨ 使徒よ、言え。かれがあなた方を召集され報われるため復活して集合する日は、不信仰者の損失や欠陥が明らかになる日だ。信者は不信仰者の住まいを樂園で引き継ぎ、地獄の人々は地獄で樂園の人々の家を引き継ぐ(訳注:現世で信者はつましい住まいに住むが、不信仰者は立派な家に住んでいる)。アッラーを信じ、正しい行いをする人は、アッラーがさまざまな罪を消去して、川が宮殿や樹木の下を流れる樂園に入れられる。かれらは永遠にその中に住まい、外へ出されることはなく、安楽も途絶えることはない。これはそれ以上のものがないという大いなる勝利である。

本諸節の功徳:

- アッラーは人間を不幸な人と、幸せになる人に分けられた。
- 復活の日に損失をこうむる人々がいることを覚えておくことは、正しい行動をするのに助けになる手法である。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ
يُسَبِّحُ لِلَّهِ مَا فِي السَّمَوَاتِ وَمَا فِي الْأَرْضِ لَهُ الْمُلْكُ وَلَهُ الْحَمْدُ
وَهُوَ عَلَى كُلِّ شَيْءٍ قَدِيرٌ ① هُوَ الَّذِي خَلَقَكُمْ فَمِنْكُمْ كَافِرٌ وَمِنْكُمْ
مُؤْمِنٌ وَاللَّهُ بِمَا تَعْمَلُونَ بَصِيرٌ ② خَلَقَ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضَ
بِالْحَقِّ وَصَوَّرَكُمْ فَأَحْسَنَ صُوَرَكُمْ وَإِلَيْهِ الْمَصِيرُ ③ يَعْلَمُ
مَا فِي السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ وَيَعْلَمُ مَا تُسْرُونَ وَمَا تُعْلِنُونَ وَاللَّهُ
عَلِيمٌ بِذَاتِ الصُّدُورِ ④ أَلَمْ يَأْتِكُمْ نَبَأُ الَّذِينَ كَفَرُوا مِنْ قَبْلُ
فَذَاقُوا وَبَالَ أَمْرِهُمْ وَلَهُمْ عَذَابٌ أَلِيمٌ ⑤ ذَلِكَ بِأَنَّهُ كَانَتْ تَأْتِيهِمْ
رُسُلُهُم بِالْبَيِّنَاتِ فَعَالُوا أَبْشَرٌ يَهُدُوا وَكُفَرُوا وَتَوَلَّوْا وَأَسْتَغْنَى
اللَّهُ وَاللَّهُ غَنِيٌّ حَمِيدٌ ⑥ زَعَمَ الَّذِينَ كَفَرُوا أَنْ لَنْ يُبْعَثُوا قُلْ بَلَى
وَرَبِّي لَتُبْعَثُنَّ ثُمَّ لَتُنَبَّؤُنَّ بِمَا عَمِلْتُمْ وَذَلِكَ عَلَى اللَّهِ يَسِيرٌ ⑦
فَعَالِمُوا بِاللَّهِ وَرَسُولِهِ وَالنُّورِ الَّذِي أَنْزَلْنَا وَاللَّهُ بِمَا تَعْمَلُونَ خَبِيرٌ
⑧ يَوْمَ يَجْمَعُكُمْ لِيَوْمِ الْجَمْعِ ذَلِكَ يَوْمُ التَّعَابِينِ وَمَنْ يُؤْمِنْ بِاللَّهِ
وَيَعْمَلْ صَالِحًا يُكْفِرْ عَنْهُ سَيِّئَاتِهِ وَيُدْخِلْهُ جَنَّاتٍ تَجْرِي مِنْ
تَحْتِهَا الْأَنْهَارُ خَالِدِينَ فِيهَا أَبَدًا ذَلِكَ الْفَوْزُ الْعَظِيمُ ⑨

وَالَّذِينَ كَفَرُوا وَكَذَّبُوا بِآيَاتِنَا أُولَٰئِكَ أَصْحَابُ النَّارِ
 خَالِدِينَ فِيهَا ۖ وَسَاءَ الْمَصِيرُ ﴿١٦﴾ مَا أَصَابَ مِنْ مُصِيبَةٍ
 إِلَّا بِإِذْنِ اللَّهِ وَمَنْ يُؤْمِنْ بِاللَّهِ يَهْدِ اللَّهُ قَلْبَهُ ۚ وَاللَّهُ بِكُلِّ
 شَيْءٍ عَلِيمٌ ﴿١٧﴾ وَأَطِيعُوا اللَّهَ وَأَطِيعُوا الرَّسُولَ فَإِنْ
 تَوَلَّيْتُمْ فَإِنَّمَا عَلَىٰ رَسُولِنَا الْبَلَّغُ الْمُبِينُ ﴿١٨﴾ اللَّهُ لَا إِلَهَ
 إِلَّا هُوَ وَعَلَىٰ اللَّهِ فَلْيَتَوَكَّلِ الْمُؤْمِنُونَ ﴿١٩﴾ يَا أَيُّهَا
 الَّذِينَ آمَنُوا إِنَّمِنَّا مَنْ أَرْوَاهُ مِنْ أَرْوَاهِكُمْ وَأَوْلَادِكُمْ
 عَدُوًّا لَكُمْ فَاحْذَرُوهُمْ وَإِن تَعَفَوْا وَتَصَفَحُوا وَتَغْفُرُوا
 فَإِنَّ اللَّهَ غَفُورٌ رَحِيمٌ ﴿٢٠﴾ إِنَّمَا أَمْوَالُكُمْ وَأَوْلَادُكُمْ
 فِتْنَةٌ وَاللَّهُ عِنْدَهُ أَجْرٌ عَظِيمٌ ﴿٢١﴾ فَاتَّقُوا اللَّهَ مَا اسْتَطَعْتُمْ
 وَأَسْمِعُوا وَأَطِيعُوا وَأَنْفِقُوا خَيْرًا لِأَنْفُسِكُمْ ۚ وَمَنْ يُوقِ
 شَحْحَ نَفْسِهِ فَأُولَٰئِكَ هُمُ الْمُفْلِحُونَ ﴿٢٢﴾ إِن تَقَرَّبُوا
 إِلَى اللَّهِ فَرَضًا حَسَنًا يُضْعِفْهُ لَكُمْ وَيَغْفِرْ لَكُمْ ۚ وَاللَّهُ شَكُورٌ
 حَلِيمٌ ﴿٢٣﴾ عَلَيْهِ الْعَيْبُ وَالشَّهَادَةُ الْعَزِيزُ الْحَكِيمُ ﴿٢٤﴾

سُورَةُ الظَّلَاقِ

١٢

١٥

①⑥だから最大限アッラーを畏れて、命令に従い、禁止事項を避けよ。アッラーとその使徒に耳を傾け、従い、またアッラーからの糧である金銭を善のための施しとして使うのだ。アッラーが利己に埋没することから守られる人は望むものを得て、恐れるものから逃れられるのである。

①⑦あなた方がもし、その財産からアッラーに善い貸付をするならば、かれはあなた方のためにそれを10倍にも増加され、あなた方に報いられる。さらには、700倍か、それ以上かもしれない。あなた方の罪は赦され、アッラーはその行いを高く評価し、小さな善行に大きな報奨を与え、よく寛恕され懲罰を急がれることはない。

①⑧また至高なるアッラーは、幽玄界も可視界も知っておられ、何事も知らないものはなく、偉力大で誰も勝ることができない。その創造と命令と法規においても、英明である。

本諸節の功徳:

- アッラーからの啓示を伝えることが、使徒の務めである。導きはアッラーの手中にある。
- 運命を信じることは、心の安寧と導きへの原因となる。
- 責務はその人の能力の範囲において負わされる。
- アッラーの道に施す人には、その報奨が何倍にも増加される。

⑩アッラーを拒否して、使徒に下したわれらの印を嘘であるとしたりした者は、地獄の火の住人で、その中に永遠に住むのである。何と悪い行き先か。

⑪自分の心、資財、あるいは子供などに起こるどんな災厄も、アッラーの裁きと力(定命)なくして起きることはない。誰でもアッラーとその運命とその能力を信じる者は、その心は導かれ、命令に服し、運命に満足する。実にアッラーは、すべてのことに熟知されて、何事も隠すことはできない。

⑫だからアッラーに従うのだ。また使徒に従え。たとえあなた方が背き去っても、それはあなた方の罪であり、われらの使徒の務めは、ただ命じられたように教えを明瞭に伝達することだけ。かれはまさしく、命じられたように伝達したのである。

⑬アッラー、かれの他に真に崇拜されるべき神はない。だから信者は、アッラーに全幅の信頼を寄せよ。

⑭アッラーを信じ、正しい行いをする人よ、あなた方の妻や子供の中にも、あなた方に対する敵がいる。というのは、かれらはあなた方がアッラーを念じて、その道に努力を尽くすことを妨げて、失敗させるかもしれないからだ。だからかれらに用心し、振り回されないようにせよ。だがもしあなた方がかれらを免じ、大目に見て許すならばそれもよい。アッラーは、よく赦されるお方であり、慈悲深いお方なのだ。報いは、あなたの行いと同類のものとなる。

⑮あなた方の財産や子女は、一つの試練に過ぎない。それらはあなた方が禁じられたものを獲得したり、アッラーへの帰依を忘れさせたりするかもしれない。アッラーの御元の偉大な報奨は、子供への服従や金銭に勤しむことよりアッラーへの帰依を優先した人にこそあるが、それは樂園である。

本章の趣旨:

離婚とその既定の重大さ、そして篤信の果実と、アッラーの掟を破ることについての説明

説明:

① 預言者よ、あなたの共同体の誰かが妻を離婚する際は、1回目の待婚期間に離婚させよ。つまり、性交しておらず、月経でもないときに離婚するようにし、待婚期間を守るのだ。それは彼女とよりを戻したくなった時に、そうすることが出来るようにするためである。あなた方の主アッラーを畏れ、命令を遵守し、禁止事項を犯さないようにせよ。かの女らに不倫など明らかにみだらな行為がない限り、待婚期間満了以前に家から追い出してはならない。またかの女らを自分で出て行かせてもならない。これらは僕に対するアッラーの掟で、アッラーの掟に背く者は、確かに自分の魂を損なう者であり、それは主に対する背反のために、破滅の原因を招くものである。離婚する者は知らないが、アッラーはこの後で、男性の心を復縁へと向け直し、かの女とのよりを戻させるかも知れない。

② その期間満了が近づく時は、もしその願望があってよい付き合いができるなら、よりを戻してもよいし、そうせずに期間を満了させてもよい。そして自分で事態を処理できるようにし、かの女の権利を与えよ。関係を戻すにしても、あるいは離婚するにせよ、あなた方の中から公正な2人の証人を立て、将来の争議を避けるのだ。証人よ、アッラーのお顔を望んで証言せよ。これは、アッラーと最後の日を信じる者への諭しである。諭しと警告から受益し、その命令を守り、禁止事項を避ける者に**かれ**は苦しみと困難からの出口を与えられるのだ。

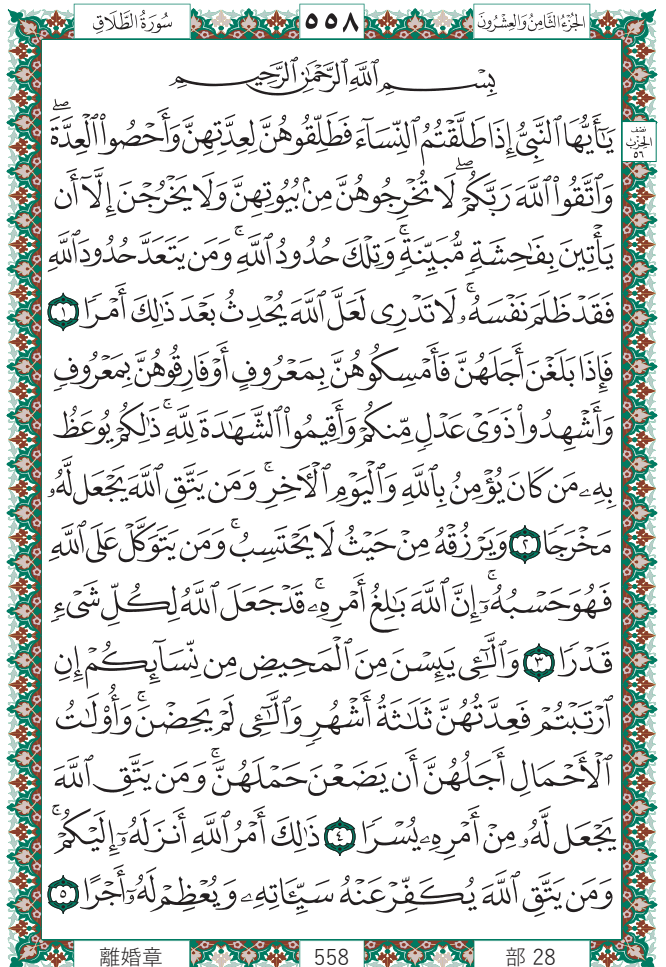
③ 人が思いもつかず、計算もできないところから、恵みが与えられる。アッラーに依拠する者には、**かれ**は万全である。そしてアッラーは、必ずその意向を徹底する。できないことはなく、欠けることもない。アッラーはすべてのことに、ある分量を定め、厳しさにも快楽にも限度があり、それらは永続させられない。

④ あなた方の妻の内、年齢からして月経の望みのない者について、もし疑いを抱くならば定めの間は3カ月である。まだ小さくて月経のない者についても、定めの間は3カ月である。妊娠している場合、離婚から、もしくは未亡人となってからの待機期間は、かの女が出産するまでとなる。アッラーを畏れる者にはアッラーは物事を容易にされ、その人の困難を簡単にされる。

⑤ これら離婚、復婚、待婚期間は、アッラーが、あなた方に下された命令である。信者たちよ、そのことを知れ。アッラーを畏れ、その命令を守り、禁止事項を避ける者は、その罪悪を払われ、来世では偉大な報奨を与えられる。それは樂園に入ることであり、絶えることのない安楽である。

本諸節の功德:

- 預言者(アッラーの祝福と平安を)のメッセージは、彼個人のものとはっきりしない限りは、その共同体に対するものである。
- まだ復縁する余地のある形で離婚された女性に対する住まいと経費負担は、夫の義務である。
- 将来の争議を避けるために、証人を求めること。
- アッラーを畏れることの多くの功德と、その偉大さ。



أَسْكُوهُنَّ مِنْ حَيْثُ سَكَتْنَ مِنْ وَجْدِكُمْ وَلَا تَنْضَارُوهُنَّ لِتَضَيِّقُوا
 عَلَيْهِنَّ وَإِنْ كُنَّ أُولَاتٍ حَمَلٍ فَأَنْفِقُوا عَلَيْهِنَّ حَتَّىٰ يَضَعْنَ حَمْلَهُنَّ فَإِنْ
 أَرْضَعْنَ لَكُمْ فَآتُوهُنَّ أُجُورَهُنَّ وَأَتَمِّرُوا بَيْنَكُمْ بِمَعْرُوفٍ وَإِن
 تَعَاَسَرْتُمْ فَمَسْرُوعٌ لَهُ وَالْأُخْرَىٰ ⑥ لِيُفِيقَ ذُو سَعَةٍ مِّن سَعَتِهِ وَمَن
 قَدَّرَ عَلَيْهِ رِزْقَهُ فَلْيُفِيقْ مِمَّا آتَاهُ اللَّهُ لَا يَكْلِفُ اللَّهُ نَفْسًا إِلَّا
 مَاءً آتَاهَا سَيِّجَعًا ⑦ اللَّهُ بَعْدَ عَسْرِ يُسْرًا ⑧ وَكَأَيِّن مِّن قَرْيَةٍ عَتَتْ
 عَن أَمْرِ رَبِّهَا وَرُسُلِهِ فَحَاسَبْنَاهَا حِسَابًا شَدِيدًا وَعَدَّ بِهَا عَذَابًا
 نُكْرًا ⑨ فَذَاقَتْ وَبَالَ أَمْرِهَا وَكَانَ عَاقِبَةُ أَمْرِهَا خُسْرًا ⑩ أَعَدَّ اللَّهُ
 لَهُمْ عَذَابًا شَدِيدًا فَاذْفَقُوا اللَّهَ يَا أُولِيَ الْأَلْبَابِ الَّذِينَ ءَامَنُوا قَدْ أَنْزَلَ
 اللَّهُ إِلَيْكُمْ ذِكْرًا ⑪ رَسُولًا يَتْلُوا عَلَيْهِكُمْ آيَاتِ اللَّهِ مُبَيِّنَاتٍ لِّيُخْرِجَ
 الَّذِينَ ءَامَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ مِنَ الظُّلُمَاتِ إِلَى النُّورِ وَمَن يُؤْمِن
 بِاللَّهِ وَيَعْمَلْ صَالِحًا يُدْخِلْهُ جَنَّاتٍ تَجْرِي مِن تَحْتِهَا الْأَنْهَارُ خَالِدِينَ
 فِيهَا أَبَدًا قَدْ أَحْسَنَ اللَّهُ لَهُ وَرِيقًا ⑫ اللَّهُ الَّذِي خَلَقَ سَمْعَ سَمَوَاتٍ
 وَمِنَ الْأَرْضِ وَمِثْلَهُنَّ يَتَنَزَّلُ الْأَمْرُ بَيْنَهُنَّ لِتَعْلَمُوا أَنَّ اللَّهَ عَلَىٰ
 كُلِّ شَيْءٍ قَدِيرٌ وَأَنَّ اللَّهَ قَدْ أَحَاطَ بِكُلِّ شَيْءٍ عِلْمًا ⑬

離婚と復婚の定めの後、アッラーはここで経費と住まいについて説明される。

⑥ 夫たちよ、かの女たちをあなた方の暮らしている所であなた方の力に応じて住ませよ。それ以上アッラーは求められない。かの女らを経費や住まいなどで圧迫して、困らせてはならない。もし妊娠しているならば、出産するまでかの女たちのために支出するのだ。もしかの女たちが授乳する場合は、その経費を与え、あなた方の間で良識をもって相談せよ。もし夫がけちで、あるいは女が主張を曲げずに望みのままを求めるならば、父親は他の女を雇ってその子に授乳させよ。

⑦ 豊かな者には、その豊かさに応じて離婚した女と子弟のために支払わせよ。また資力の限られた者には、アッラーがかれに与えたものの中から支払わせるのだ。アッラーは、誰にもかれが与えられた以上のものを課されないし、可能な以上のことを負担させることもない。真にアッラーは、困難と厳しさの後には、豊かさで満足を受けられる。

アッラーは一群の命令を出した後、それに反する者への警告も出した。そのような悪い結末に関して、アッラーは言った。

⑧ どんなに多くの町が、至高なるアッラーとかれの使徒(アッラーの祝福と平安を)たちの命令に背いたために、その悪行を厳しく精算され、現世と来世において厳しい懲罰を与えられたことか。

⑨ こうしてかれらは、その悪い行いの結果を味わい、現世でも来世でも最後には滅亡したのだ。

⑩ アッラーはかれらのために、激しい苦痛を用意される。だから、アッラーと預言者を信じて、命令を守り、禁止事項を避ける理性ある人々よ、アッラーを畏れよ。かれらを襲った懲罰が、あなた方に降ってこないように。アッラーは、確かにあなた方に啓示を下され、それで背信の結末

の悪いことと、アッラーに従うことの結末の善さを思い起こさせる。

⑪ 使徒がアッラーの印をあなた方に読誦し明瞭に解明するのは、アッラーと預言者を信じる者を、暗黒の深みから光明の中に導き出すためである。およそアッラーを信仰して正しい行いに励む者は、川が宮殿と木々の下を流れる楽園に入り、永遠にその中に住むこととなる。実にアッラーは、安楽の途絶えることのない楽園に入らせることで、かれらのためによい糧を下さるのだ。

⑫ アッラーこそは、7層の諸天と同様の数の大地を創造なされた方。存在と法規上の命令は、それらの間から下って来る。それは、真にアッラーはすべてのことに全能で、不可能なことはなく、また至高なるアッラーはすべてをご承知で、天でも地上でも知らないことはないということを、あなた方に周知させるためである。

本諸節の功德:

- 離婚後は、妊婦に授乳の義務はないこと。
- 可能な範囲でしか、責務を負わせないこと。
- アッラーの能力とすべてを熟知するということ信じれば、喜悅と心の安寧の原因となる。

本章の趣旨:

家庭と社会の規範としての預言者の家庭教育

説明:

①使徒よ、女奴隷のマーリヤを使うという、アッラーがあなたのために合法とされていることを、どうしてあなたの妻たちが嫉妬を覚えたのに対して機嫌をとるために、自分自身に禁止するのか。アッラーはよく赦されて、慈悲深いお方である。

②アッラーは、あなた方の誓いに関して、それよりよいものを見出したか、あるいはそれを破る場合には、償いをもって解消するよう、義務付けられた。アッラーはあなた方の支援者であり、あなた方の事情や、何があなた方に正しいかを全知であり、その法規と定めにおいて英明である。

③預言者(アッラーの祝福と平安を)が妻のハフサに、女奴隷のマーリヤを今後は近づけないという秘密の話を語ったところ、かの女はそれをアーイシャにもらした。アッラーは秘密もれたことをかれに知らせたので、かれはハフサを責めてその一部分を言及したが、それ以外の部分は伏せておいた。そうしたら、誰がそう告げたのか、ハフサが尋ねたので、かれは答えて言った。隠されたものも、何もかも御存知のお方が、わたしに告げられたと。

④これら2人の妻は、アッラーに改心すべきである。というのは、女奴隷を遠ざけて禁止するという預言者(アッラーの祝福と平安を)が嫌がることを、好むようにその心が傾いたからだ。しかしもし共同してしつこく預言者に対抗するならば、知るのだ。アッラーはかれの擁護者で、またジブリールや正しい信者たち、さらに天使たちも全員、かれに対する支持者である。

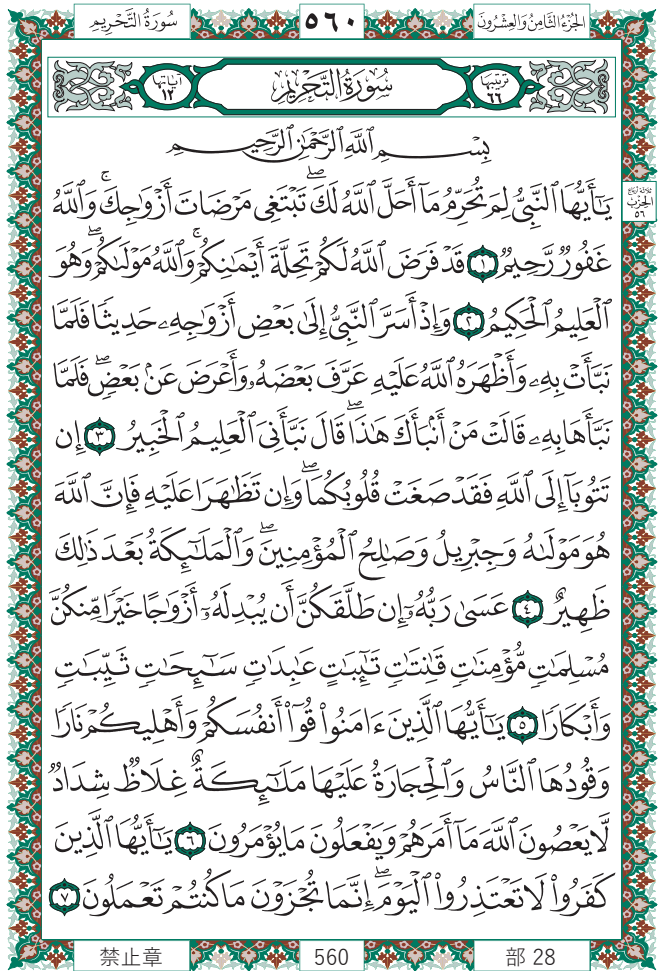
⑤かれがもしあなた方2人を離婚するなら、至高なる主はあなた方よりよい妻たちを、その代わりに授けられるだろう。それらの女たちはアッラーに服従し、アッラーと預言者に信仰心篤く、敬虔で、罪を悔いて、主に崇拜を捧げ、進んで斎戒もしっかりする。それには再婚者もあり処女もあるだろう。しかしかれは離婚しなかった。

⑥信仰して行動正しい人よ、人間と石を燃料とする地獄の火からあなた方自身とその家族を守れ。そこには荒々しくて激しい天使たちがいて、かれらはアッラーが命じられたことに背かず、躊躇せず、弱々しさを見せずに命じられたことを実行する。

⑦不信仰者に復活の日に言われるのは、今日は不信仰と背反について、弁解してはならない、それは受け付けられない、という言葉。今日は、アッラーへの不信仰と預言者の拒否という、あなた方が自ら行ってきたことについて応報を受けるだけなのだ。

本諸節の功德:

- 誓いの撤回に対する、贖罪の合法性。
- 預言者(アッラーの祝福と平安を)の主における位階と、主がかれを守られることの解明。
- 選ばれた人(アッラーの祝福と平安を)の妻たちに対する寛容さとして、咎めで突っ込まずに、いくつかの過ちを示したのに留め、愛情の余地を残した。
- 信者は自身と家族に責任を負うこと。



بَيَّأُهَا الَّذِينَ ءَامَنُوا تُوْبُوْا اِلَى اللّٰهِ تُوْبَةً نَّصُوْحًا عَسَىٰ رَبُّكُمْ
 اَنْ يُّكْفِرَ عَنْكُمْ سَيِّئَاتِكُمْ وَيُدْخِلَكُمْ جَنَّاتٍ تَجْرٰى
 مِنْ تَحْتِهَا الْاَنْهٰرُ يَوْمَ لَا يُخْزٰى اللّٰهُ النَّبِيَّ وَالَّذِيْنَ ءَامَنُوا
 مَعَهُ ۗ وَرُوْهُمۡ يَسْعٰى بَيْنَ اَيْدِيْهِمْ وَاَيْمٰنِهِمْ يَقُوْلُوْنَ رَبَّنَا
 اَتَمِّمْ لَنَا نُوْرًا وَاغْفِرْ لَنَا اِنَّكَ عَلٰى كُلِّ شَيْءٍ قَدِيْرٌ ﴿٨﴾
 بَيَّأُهَا النَّبِيُّ جِهَدِ الْكُفَّارِ وَالْمُنٰفِقِيْنَ وَاغْلَظْ عَلَيْهِمْ
 وَمَا وٰلَهُمْ جِهَةٌ وَّبَشِّرِ الْمَصِيْرِ ﴿٩﴾ ضَرَبَ اللّٰهُ مَثَلًا
 لِلَّذِيْنَ كَفَرُوْا اَمْرٰتٌ نُّوحٍ وَاَمْرٰتٌ لُّوطٍ كَاَتَاخَتَ
 عَبْدَيْنِ مِنْ عِبَادِنَا صٰلِحِيْنَ فَاَتَاهُمَا فَامْرَاةٌ يُّغْنِيَا عَنْهُمَا
 مِنَ اللّٰهِ شَيْئًا وَقِيْلَ اَدْخُلَا النَّارَ مَعَ الدّٰخِلِيْنَ ﴿١٠﴾
 وَضَرَبَ اللّٰهُ مَثَلًا لِلَّذِيْنَ ءَامَنُوا اَمْرٰتٌ فِرْعَوْنَ اِذْ
 قَالَتْ رَبِّ اَبْنِ لِيْ عِنْدَكَ بَيْتًا فِى الْجَنَّةِ وَنَجِّنِيْ مِنْ فِرْعَوْنَ
 وَعَمَلِهٖ ۗ وَنَجِّنِيْ مِنَ الْقَوْمِ الظّٰلِمِيْنَ ﴿١١﴾ وَمَرِيْمَ اَبْنَتَ
 عِمْرَانَ الَّتِيْ اَحْصَنَتْ فَرْجَهَا فَنَفَخْنَا فِيْهِ مِنْ رُّوْحِنَا
 وَصَدَقَتْ بِكَلِمٰتِ رَبِّهَا وَكُتِبَ عَلَيْهَا وِجْرٰتٌ مِّنَ الْاَلْفَنْتِيْنَ ﴿١٢﴾

⑧ アッラーを信じ、正しい行いをする信者たちよ、心から改心してアッラーに帰れ。復活の日に主は、あなた方の様々な悪を払い、川が宮殿の下を流れる楽園に入らせるかもしれない。その日アッラーは、預言者やかれと共に信じる者たちを、地獄に入れて辱しめることはしない。かれらの光は地獄の上の架け橋において、両手の間(前方)とその右側に閃くだろう。かれらは言う。主よ、われわれのために、光を完全にして、楽園に入れて下さい。偽信者のように、その火が地獄の上の架け橋の上で消えてしまわないように。われわれを御赦したまえ。あなたはすべてのことに全能で、われわれの火を完全にして、罪を払うことができないお方ではない。

⑨ 使徒よ、不信仰者には剣で、偽信者に対しては舌と法規で、奮闘尽力せよ。かれらに対し手ごわくして、恐れられるように。かれらの復活の日の住まいは、地獄である。結局帰る住まいは、何と悪い行き先か。

⑩ アッラーは不信仰者の実例を示された。かれらの信者たちとの関係は、何の役にも立たない。ヌーフ(平安を)の妻とルート(平安を)の妻は2人の正しいアッラーの使いと結ばれたが、かの女たちは、その夫に対して欺き、アッラーの道から妨げ、同族の不信仰の人々を助けてしまった。かの女たちが正しい僕の妻であることは役立たず、両名は他の不信仰者や掟破りの者と一緒に地獄の火に入れ、と命じられた。

⑪ またアッラーは、不信仰な人々との関係が害悪を及ぼさず、正しい道にいる限り影響されることもないという、信仰する者の実例を示された。フィルアウンの妻はこう言った。主よ、楽園の中のあなたの側に、わたしの家を建てて下さい。そしてフィルアウンの横暴と権力、そしてその悪行からわたしを救い、またかれの圧政と不正に従う、自ら不正を犯す人々からわたしをお救い下さい。

⑫ また自分の貞節を守ったイムラーンの娘マルヤムの例を挙げられた。アッラーはジブリールに命じて、かの女の体内に魂を吹き込んで、父親のない息子、イーサー・ビン・マルヤムを懐妊させた。かの女は主の定めと使徒に下されたその啓典を真実として受け入れ、アッラーに敬虔な女性であった。その命令に従って、禁止事項は避けた。

本諸節の功德:

- 真摯な悔悟は、あらゆる善の原因となる。
- 知識と論拠による尽力と剣による尽力が関連させられていることは、それらが重要であり、いずれも不可欠であることを示す。
- 復活の日には、宗教が異なれば血縁などの関係があっても役に立たない。
- 節度と、疑念から遠いことは、正しい女性信者の特性の一つである。